

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO みずほ銀行

2024年5月1日

みずほディーラーズアイ (2024年5月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 152.00 ~ 162.00

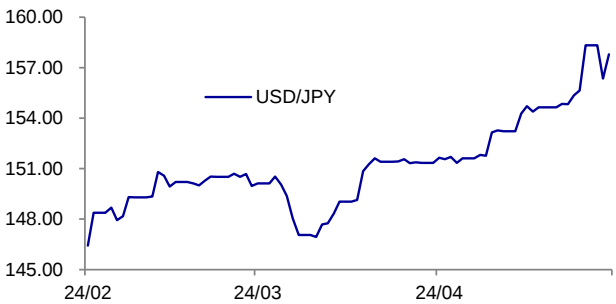
金融市場部 為替営業第二チーム 松木悠馬

■ 先月の為替相場

4月のドル円は米3月雇用統計や米3月CPI等の強い材料を背景にFRBによる利下げ回数、時期の思惑が後退したこと受け、米金利が上昇する展開にドル円は一時160円台まで上昇した。その後は一転、本邦当局によるドル売り・円買いの為替介入と見られる動きもあり、157円台後半でクローズした。(1週目) 月初151.40レベルでオープンしたドル円は、1日の米3月ISM製造業景況指数や3日の米3月ADP雇用統計の上振れを受け、米金利上昇と共に一時152円手前まで上昇。ただ、その後は米3月ISM非製造業景況指数の軟調な結果や中東情勢緊迫化によるリスク回避の動きから、151円を割れる水準まで下落。ただ、米3月雇用統計の結果が予想を大きく上回ると、151円台後半まで反発した。(2週目) 8日～9日のドル円は介入警戒感で152円手前で抑えられ上値重く推移した。しかし、10日、米3月CPIが市場予想を上回るとFRBの利下げ期待後退に152円台半ばへ急伸。その後、NY時間引けにかけて大台153円を突破。11日～12日は円安牽制発言や中東情勢不安に152円台後半に下落する場面もあったが下値は限られ153円台前半に小反発して越過。(3週目) 15日、米3月小売売上高の強い結果を受けてドル円は154円台半ばに上値を伸ばした。16日、複数のFRB高官によるタカ派発言を受け米金利が続伸する中、154円台後半まで上昇するも節目となる155円を前に上値を抑える展開となった。17日～18日では米韓財務相会合後の声明で円安およびウォン安に対する深刻な懸念を共有したことが確認されると介入への警戒感が高まり上値重く推移。19日は再び中東の地政学リスクが高まったことで153円半ばに振れる場面があったが買い戻され往って来いの展開となった。(4週目) 22日～23日は154円台でのレンジ推移。24日～25日は米5年債入札の弱い結果を受けた米金利続伸が好感されドル円は155円を突破。その後も勢い止まらず、米1QGDPでは米国の需要の堅調さや底堅いインフレが意識されるとドル円は155円台後半を維持した。26日、日銀が現行の金融政策を維持したことを受けて156円台まで円売りが加速。続く植田総裁の会見でも緩和的な金融環境が続くとの見方に変更が無かったことを受けてNY時間にかけて158円台まで上値を伸ばした。29日、東京休日で流動性の薄い中、一時160.24円まで急伸も当局による為替介入と見られる動きから154円台半ばまで急落。その後は押し目買いに上昇も、介入警戒に上値重く推移した。30日の東京時間は156円台で推移。NY時間に米金利が上昇し157円台後半でクローズした。

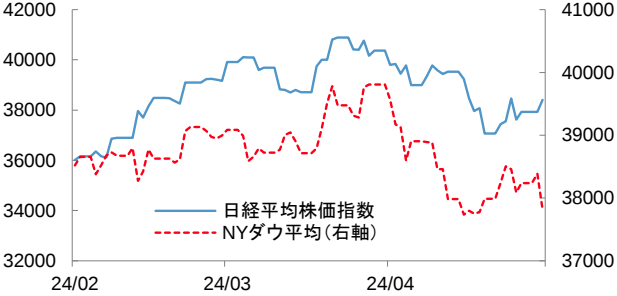
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	ISM製造業景況指数	3月	48.3	50.3	47.8
4/3	ISM非製造業景況指数	3月	52.8	51.4	52.6
4/5	非農業部門雇用者数	3月	214K	303K	270K
4/5	失業率	3月	3.8%	3.8%	3.9%
4/5	平均時給(前月比)	3月	0.3%	0.3%	0.2%
4/10	CPI	3月	3.4%	3.5%	3.2%
4/10	CPI (除く食品・エネルギー)	3月	3.7%	3.8%	3.8%
4/15	小売売上高	3月	0.4%	0.7%	1.0%
4/25	GDP	1Q	2.5%	1.6%	3.4%
4/26	日銀政策金利	-	0-0.1%	0-0.1%	0-0.1%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル/円 見通しまとめ

ブル	13名	161.00 ～ 153.00	ベア	2名	158.25 ～ 148.75	※ レンジは中心値
宮地	ベア	158.50 ～ 149.50	本邦当局による介入観測や投機筋の円ショートポジションの拡大は、ドル円の上値を抑えよう。また、米国の景況感急切れに対する思惑も高まりつつあり、今月のドル円は調整局面を予想する。			
河合	ブル	160.00 ～ 153.00	先月末、乱高下したドル円は、介入警戒感または実際の介入実施での急落可能性を孕みつつ、米国の根強いインフレ懸念を背景とした米利下げ時期の後ずれ・利下げペースの鈍化期待継続、実需筋の根強いドル買い需要により底堅い推移を予想。			
川端	ブル	161.00 ～ 154.00	4月の日銀会合を受けて円安進行が加速。利下げ観測が顕著に後退したFRBのトーンと併せて円安基調は不変。但し、4月末に示現した160円台前半を上抜けるとブラザ合意前の水準も意識されるためスピード調整的な揉み合いを予想。			
加藤	ベア	158.00 ～ 148.00	米国経済に陰りが見えてこない以上、ドル/円相場の反転を見込むことは難しいものの、足許で円独歩安の様相を呈しており、当局がその責務を果たすために円売りのスピードを緩めようと何らかの行動を起こすと思う。			
山崎	ブル	161.00 ～ 152.00	引き続き円安傾向は継続するものと見込む。状況は変わらず、介入とみられる値動きがあったが、根本的な要因が解決されない限り上方向は変わらないものと見る。当局の発言等には注意したい。			
山口	ブル	158.00 ～ 153.00	米国の利下げ期待の後退を背景とした米金利の上昇、一方で低位で推移する円金利。日米金利差が開いたままではドル円は底堅く推移すると予想する。引き続きリスクオフに転じた際の円買いには警戒したい。			
田川	ブル	161.00 ～ 152.00	マクロ的には円買い材料は見当たらない中、FOMC、雇用統計を受けてUSD/JPY上昇目線。ただ、本邦が替介入に阻まれる形で160円を上値目途としたい。介入なくば165円を目指す展開か。			
松永	ブル	158.50 ～ 152.50	原油高に伴い財インフレの再加速が懸念される中、FRBが拙速に利下げ方向に舵を切るとは想定しにくい。日銀が金融引き締めに慎重姿勢を継続する中、ドルの底堅さは継続しよう。			
上遠野	ブル	161.50 ～ 153.50	FRBのスタンス軟化までは依然距離がある状況。コモディティ価格の高止まりも相まって需給面を背景とした円売りは変わらず。スピード調整としての介入をじっくり踏み越えていく展開を想定。			
大熊	ブル	159.00 ～ 152.00	160円台から一転、円は急騰したものの、日米の金利差や日本の貿易赤字などのファンダメンタルズは変わらず、円安傾向は継続。米国の利下げ後ずれ観測を背景にFRBもタカ派姿勢を維持すると思われ、底堅い展開を予想する。			
范	ブル	160.30 ～ 153.50	米国について経済の底固さから利下げ後退観測が進む一方で、日本は緩和継続と日米金融政策格差から円が売られやすい地合いは継続か。引き続き上値トライする展開を予想するが、160円手前では為替介入警戒感も燃る。			
伊藤(基)	ブル	163.00 ～ 153.00	為替介入があろうと無かろうとドル円の上昇基調を止めることは出来ない。日銀が追加利上げに消極的な姿勢を維持する間は、米国の景気に陰りが見えるかもしれないが物価上昇圧力が急激に鈍化しない限り、ドル円は上昇続けるであろう。			
鈴木	ブル	162.00 ～ 153.00	FOMC、米4月雇用統計を見極めたいものの、利下げ開始の織り込みは後退が続いており、ドル高が基本トレンド。当局による為替介入が実施されても、効果は一時的、金融格差を背景とした円売りからドル円は底堅い推移になることを予想。			
西	ブル	159.00 ～ 153.00	為替介入による円安抑制効果は一時的か。堅調な米国経済を背景に、米利下げ織込みが剥落し続けている。日米金利差に駆動され、ドル円はじり高推移を見込む。160円手前では介入警戒感で上値は抑えられるだろう。			
松木	ブル	162.00 ～ 152.00	本邦当局による介入警戒感は煽るものの、日銀による緩和的な金融環境は当面続く見通しであり、FRBによる利下げが時期・回数ともに遠のいている状況下ではドル円は確り推移しやすい。			

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.0500 ~ 1.0800
EUR/JPY 165.00 ~ 170.00

金融市場部 為替営業第一チーム 尾身 友花

■ 先月の為替相場

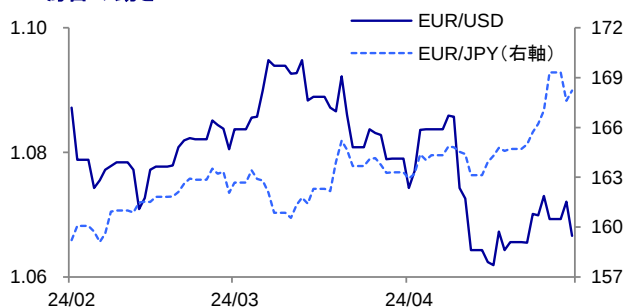
週初1日、1.0793でオープンしたユーロ/ドルは、米3月ISM製造業景況指数の堅調な結果から1.07台前半へ下落。2日は、前日の下落地合いから一時週安値の1.0725まで軟化した後、強弱まちまちな米経済指標の結果を受け1.07台後半に反発。3日は、パウエルFRB議長発言が警戒されたほどタカ派的ではなく1.08台前半へ上伸。4日、軟調な米経済指標を受け週高値の1.0876まで上値を追い、中東情勢緊迫化によるリスク回避の動きから1.08台前半に値を戻した。5日は、米3月雇用統計の強い結果を受けたドル買いから一時1.08を割り込むも、1.08台前半まで戻してクローズ。週初8日、1.0828でオープンしたユーロ/ドルは欧州株の堅調推移や独金利上昇が支援材料となり1.08台半ばまで反発。9日は、米金利低下に伴うドル売りから一時週高値となる1.0885まで上伸も、欧州株の軟調推移や独金利低下が重しとなり、1.08台半ばまで反落。10日は、米3月CPIの堅調な結果を受けた米金利の急上昇から1.07台前半に急落。11日、次回6月会合での利下げを示唆するなど総じてハト派な内容となった4月ECB政策理事会を受けた独金利低下も相まって、一時1.0699まで続落。12日は、ドル買いの流れが下押し要因となり、1.06台前半でクローズ。週初15日、1.0647でオープンしたユーロ/ドルは上昇してスタートも、米3月小売売上高の堅調な結果を受け1.06台前半に下落。16日は、下落地合いが継続し1.06付近まで軟化した後、独4月ZEW景気期待指数の市場予想を上回る結果を受け1.06台半ばまで反発。その後は米金利上昇が重しとなり、一時週安値の1.0601まで値を下げた。17日は、独金利が低下したものの、米金利低下に伴うドル売りから、1.06台後半に上昇。18日は、米金利続落から一時週高値の1.0690まで上伸も、米金利が上昇に転じ1.06台半ばに反落。19日は、中東情勢不安を背景としたリスク回避のドル買いから一時1.06台前半に下落も、欧州株の反発を受け1.06台半ば付近まで戻してクローズ。週初22日、1.0658でオープンしたユーロ/ドルは複数のECB高官のハト派発言を受け週安値の1.0624まで下落も、1.06台半ばに値を戻す展開。23日は、軟調な米経済指標を受け1.07台に上昇。24日、ドル買いに押され1.06台後半で上値重く推移。25日は材料難の中、1.07台前半でじり高。一時、1.0741まで上昇も、一服後は1.06台後半に反落。その後再度1.07台前半に反発。26日のユーロ/ドルは一時週高値1.0753をつけるも、堅調な米経済指標を受けたドル買いから1.06台後半に反落してクローズ。週初29日、1.0707でオープンしたユーロ/ドルは、1.07を挟んでレンジ推移。30日も1.07付近で方向感に乏しい推移を継続。

■ 今月の見通し

今月のユーロ相場は上値重い推移が継続すると予想する。背景は、FRBの利下げ開始時期後ずれを受け進行するドル高と6月開始を織り込むECBの利下げ観測により、ユーロは上値を押さえられると考えている。先月10日に発表された米3月CPIは予想を上回る結果(前月比+0.4%、前年比+3.5%)となり、インフレ率の持ち直しが見られた。また、米3月小売売上高も予想を上回る結果(前月比+0.7%)となり消費の底堅さを示す結果となった。インフレ率の持ち直しと消費の底堅さを受け、FRBの利下げ開始時期の予想は後ずれし、ドル高が進行する結果となっている。一方で、先月11日開催のECB会合では、声明文に金融政策の水準の引き下げが必要となる旨の文言を追加し、利下げ転換を示唆、6月6日開催予定の次回政策理事会における利下げ開始を予想する向きも多い。先月3日発表のユーロ圏3月CPIも予想比よりもインフレ率が下回る結果(前年比+2.4%)となり、インフレ率の低下が利下げ観測を後押ししており、ユーロ/ドルは4月月初よりもやや水準を落として推移している。しかしながらユーロ/ドルが比較的小動きな推移を継続しているのは、先月のECB会合でラガルド総裁も強調したように特定の金利の道筋(利下げ)を事前に確約しているわけではなく、今後のデータや外部環境によっては金利据え置きが継続する可能性も大きいからだろう。早速、先月末29日に発表された独4月EU基準CPIが前回値を上回り(前年比+2.4%)、一筋縄ではいかない結果がユーロの下落に歯止めをかけている。また、中東の地政学的緊張がインフレに上振れのリスクをもたらす可能性を示唆する高官も見られ、ユーロの大きな下落も次回ECB会合までお預けとなりそう。今月発表予定の経済指標は、7日(火)ユーロ圏3月小売売上高、14日(火)独4月CPI(改定値)、独5月ZEW景況感調査、15日(水)ユーロ圏1～3月期GDP(速報)、17日(金)ユーロ圏4月CPI(改定値)、23日(木)ユーロ圏5月各種PMIなどがある。経済指標の結果や金融政策の動向を見極めながら、上値重い推移を続けるユーロ相場がどれぐらい水準を切り下げるのか慎重に見ていきたい。

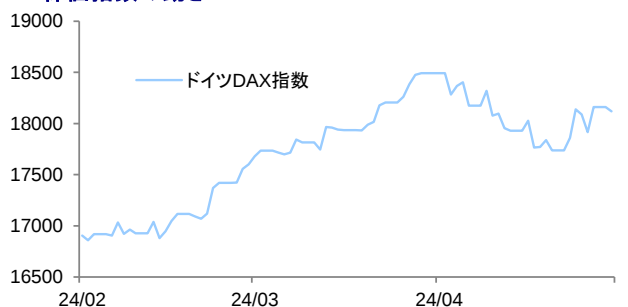
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	ユーロ圏消費者物価指数	3月	2.5%	2.4%	2.6%
4/5	独製造業受注(前月比)	2月	0.7%	0.2%	-11.4%
4/5	ユーロ圏小売売上高	2月	-0.8%	-0.7%	-0.9%
4/11	ECB主要政策金利	-	4.5%	4.5%	4.5%
4/16	ユーロ圏ZEW景気期待指数	4月	-	43.9	33.5
4/23	ユーロ圏製造業PMI(速)	4月	46.5	45.6	46.1
4/23	ユーロ圏サービス業PMI(速)	4月	51.8	52.9	51.5
4/29	独EU基準CPI(前年比)	4月	2.3%	2.4%	2.3%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ/ドル 見通しまとめ 見通しまとめ

ブル	1名	1.1000 ～ 1.0600	ベア	14名	1.0800 ～ 1.0500	※ レンジは中心値
宮地	ベア	1.0800 ～ 1.0450	ECBの利下げ観測は根強く、利下げが遠のいた米国との対比からユーロは買い進めづらい。加えて、足許、マーケットでは利下げに舵を切った通貨が売られやすい傾向が見られることもユーロの上値を抑えよう。			
河合	ベア	1.0800 ～ 1.0550	6月利下げが確実視される欧州と対照的に、米国側は根強いインフレ懸念を背景とした利下げ時期の後ずれ・利下げペースの鈍化期待により、ユーロドルは弱含みの展開を予想。			
川端	ベア	1.0900 ～ 1.0500	米指標および金利見通しに振られる展開が基本シナリオ。欧州当局のコメントからも欧州のインフレ鎮静化を確認するフェーズの継続が見込まれる。域内経済の基調は弱いことから指標次第では直近レンジ内で下値模索の展開も。			
加藤	ブル	1.1000 ～ 1.0600	市場参加者の多くは6月利下げ開始を予想しているものの、現状入手できるデータからは急いで利下げなければならない環境にあるとは言い難く、今しばらくは小動きが続くと思う。			
山崎	ベア	1.0800 ～ 1.0550	ECBの6月利下げがGivenとみられる中で、FOMCの利下げ時期が後退しているとみられる中で、軟調な展開を予想したい。米国の動きには注意が必要と思うが、当面はこの流れが続くのではないかと想定。			
山口	ベア	1.0900 ～ 1.0600	ECBによる6月利下げの織り込みは進んでおり、欧米の金融政策の違いからドルが選好されると予想。ただし、追加利下げの可能性については依然として見方が分かれており、ユーロの急落は想定していない。			
田川	ベア	1.0800 ～ 1.0400	USD/JPYと同じく、ドル買いを背景とした下落目線がメインシナリオ。ECBは6月利下げは既定路線。連続利下げに対するコンセンサスが注目点。中期的にはEUR/USDパリティも視野に入れておきたい。			

松永	ベア	1.0850 ～ 1.0500	欧州ではサービス業で経済の底打ち感がみられるが、製造業の持ち直しには時間を要しそうな状況。ECBの利下げ期待が根強い中ユーロはドルに対して軟調な推移が継続しそう。
上遠野	ベア	1.0800 ～ 1.0600	6月利下げ着手のメインシナリオに変化なし。対ドルでの弱含みが鮮明。ただ、急激な通貨安による悪影響に配慮し利下げペースは緩やかなものとなる見込み。下値1.06は堅いか。
大熊	ベア	1.0800 ～ 1.0500	中東情勢の緊迫化に伴う原油高の影響は限定的との見方で、ユーロ圏のインフレは抑えられている。6月のECBでの利下げは事実上予告済みである上に、追加利下げも視野に入る状況下、ユーロは上値重い展開を予想。
范	ベア	1.0800 ～ 1.0450	ECBは予定通り6月の利下げが濃厚。足許の底固い経済を背景としたFRBの利下げ観測後退との比較からユーロは相対的に売られやすいと予想。
伊藤(基)	ベア	1.0800 ～ 1.0500	金融政策の方向性の違いが相場を動かすだろう。米国の利下げ開始時期は更に後ろ倒しされる可能性は高まっている。一方で、ユーロ圏は利下げを開始し追加的な利下げも順次行なわれるだろう。その結果、ユーロ安の展開になりやすいだろう。
鈴木	ベア	1.0850 ～ 1.0550	4月のECB理事会では、早ければ6月会合での利下げ開始が示唆された。開始時期の織り込みが徐々に後退、一部では利上げの必要性も言及される米国との金融政策格差は明白であり、ユーロは軟調な推移になることを予想する。
西	ベア	1.0800 ～ 1.0500	FEDは利下げ後ろ倒しが濃厚である一方、ECBの利下げは当初予定通り6月の可能性が高い。今月発表される1-3月期の妥結賃金の結果を以って、利下げに踏み切るとみられる。欧米金利差に従い、ユーロ安となるだろう。
松木	ベア	1.0800 ～ 1.0500	ECBによる6月利下げを市場は既に織り込んでおり、ユーロの下落要因とはならないものの、米国でデイスインフレの進展が見られずFRBによる利下げ思惑が後退している以上、ドル高が続く可能性が高く、ユーロは弱含みやすい。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.2350 ~ 1.2800
GBP/JPY 190.00 ~ 200.00

欧州資金部 中島 將行

■ 先月の為替相場

4月の英ポンド相場は上旬から下旬にかけて対ドルで下落圧力が強まり、対ドル1.2631から22日には1.2300まで▲2.7%下落したが、その後は持ち直し、4月29日ロンドン時間午後5時時点で対ドル1.255前後まで上昇している。第1週は1週間を通して見ればほぼ横ばいの相場展開となった。5月1日に控えるFOMCに向け、パウエルFRB議長らFRB高官が相次いで利下げのタイミングを慎重に見極める姿勢を示したほか、5日に発表された米3月雇用統計では市場予想を上回る雇用者増という結果となったことを受けてドル高圧力が強まる場面もあった。また、英経済指標では2日に発表された3月分のネーションワイド住宅価格指数が3か月ぶりに前月比でマイナスとなったことも英ポンドの重石となった。第2週は、英ポンド相場は対ドルで約▲1.5%下落。10日に発表された米3月消費者物価指数(CPI)が市場予想を上回る結果となったことを受けて、グローバルに中央銀行の利下げ期待が後退し、ドル高を促した。第3週のポンド相場は対ドルで約▲0.7%の続落となった。底堅い米経済指標を背景に、市場の米利下げ期待が後退していることや、イランとイスラエルの緊張の高まりとグローバルなリスクセンチメントの悪化に伴う安全資産への需要が、ドルを押し上げている。こうしたグローバルなドル買いの流れに加えて、16日に発表された英国の労働市場関連指標が労働需給の逼迫や賃金上昇圧力の緩和を示唆する内容だったことやBOEのベイリー総裁のハト派なコメントも、ポンド相場の重石となった。第4週のポンド相場は反発した。23日にBOEのビル・チーフエコノミストは、利下げ時期の判断にあたっては慎重に慎重を重ねると述べ、インフレが持続するリスクへの警戒を怠らないことが当局者は必要だと主張した。また、同じく23日にはハスケル委員は求人と失業率を注視するとし、インフレリスクに対する警戒姿勢を崩さなかった。第5週は、米国で5月をはじめにFOMCや雇用統計と重要イベントを控えるなか、ポンドの持ち直しの動きが続いている。

■ 今月の見通し

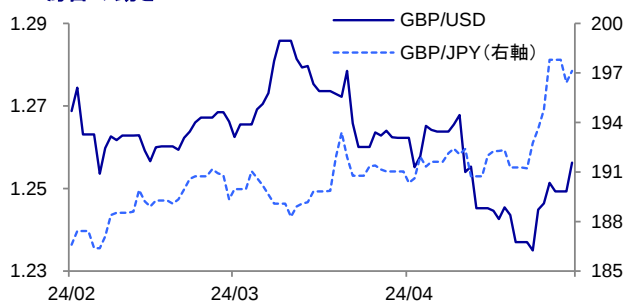
ポンド相場は対ドルでは引き続き上値の重い展開となるだろう。BOEがFRBよりも早期に利下げを行うという見方が強まりつつあることが今年3月以降のポンド相場の上値を押さえている。FRBを巡っては、次の動きは利下げではなく追加利上げ、という見方すら高まりつつあり、当面、金融政策の方向感の違いからドルがポンドを含む主要通貨を圧倒する流れは続きそう。もちろん、FRBからの情報発信や米国の物価・雇用環境次第でこの流れが変わる可能性がある。5月1日に開催されるFOMCや5月3日発表の米4月雇用統計は重要だ。英国側の要因では、5月9日のBOEの金融政策決定会合や、5月22日に発表される英4月CPIが注目される。市場ではBOEの利下げ開始は6月か8月との見方が多いが、エネルギー料金の低下を受けて5月22日に発表される4月分CPIは大幅に低下する公算が大きいこともあり、BOEの委員の間で利下げへの支持が広がるのではないかと見方は根強い。特に4月17日にベイリー総裁がこうした市場の見方を裏付けるように、4月のCPIはかなりの落ち込みを見せると予想していると発言したこと、4月19日にラムズデン副総裁が、インフレを取り巻くバランスは2024年2月のMPCの予想に比べて下振れ傾向にあると述べたことは、BOEの利下げ開始が近づきつつあるとの見方を裏付けるものとなった。対円相場では、4月29日にドル/円相場が160円を突破したことを受けてポンド/円も一時、200円をつけている。実に2008年8月以来の水準となった。その後、日銀・財務省による為替介入観測もあり4月29日のロンドン時間5時にかけて196円台まで低下しているものの、円安について日銀の植田総裁が「基調的な物価上昇率への大きな影響はない」と発言したこともあり当面の追加の金融引き締めは無い、という受け止めにつながっている。

■ 今月のつづき(現地からの声)

『当地のお祭り事情』
ロンドンに来て1年が過ぎましたが、私が遭遇したもので、「これは!」と思ったものをお伝えします。
(1)BBCプロムス
毎年夏に開催される、8週間に及ぶ一連のクラシック音楽コンサート・シリーズで、なんと1895年から開催されています。メイン会場は高級住宅地として知られるサウス・ケンジントン近隣にある「ロイヤル・アルバート・ホール」です。8,000人のキャパシティがある会場が、クラシックのコンサートで満席になるという時点で驚きです。音響は正直、微妙なのですが、歴史的な建物で音楽コンサートを聴いているというシチュエーションが気持ちを高めてくれます。
(2)ノッティング・ヒル・カーニバル
カーニバルという、ブラジルのリオ・デジャネイロが有名ですが(東京の浅草も)、移民都市ロンドンでは欧州最大級のカーニバルが8月に開催されます。もともとは、1958年には移民居住区であったノッティング・ヒルで人種差別を原因とする暴動が発生したことを受け、人種差別問題に対する建設的な解決案の一つとして、その翌年には同地区でカリブ文化をテーマとしたフェスティバルが開催されたのが発祥とのこと。
(3)クリスマス・キュー
キリスト教圏の最大のお祭りといえば、やはりクリスマスですが、キュー王立植物園で開催されるクリスマスイルミネーションは予約必須の一大イベントです。私は12月中のチケットが予約できずに1月にクリスマス・キューに行ったのですが、そこでも長蛇の列ができていました。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/2	ネーションワイド住宅価格指数(前年比)	3月	2.4%	1.6%	1.2%
4/11	RICS住宅価格指数	3月	-6.0%	-4.0%	-10.0%
4/12	鉱工業生産(前月比)	2月	0.0%	1.1%	-0.3%
4/12	製造業生産(前月比)	2月	0.1%	1.2%	-0.2%
4/16	週平均賃金(前年比)	12-2月	5.5%	5.6%	5.6%
4/16	失業率	2月	4.0%	4.2%	4.0%
4/17	CPI(前年比)	3月	3.1%	3.2%	3.4%
4/19	小売売上高(前月比)	3月	0.3%	0.0%	0.1%
4/23	製造業PMI	4月	50.4	48.7	50.3
4/23	サービス業PMI	4月	53.0	54.9	53.1

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.6350 ~ 0.6700
AUD/JPY 98.00 ~ 106.00

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

■ 先月の為替相場

4月の豪ドルは0.64台後半から0.6644まで上昇後、月中は0.6363まで下落し、月末にかけては0.65台まで買い戻され、往って来いの展開となった。月初、強弱のある米指標が入り混じり、また米FRB高官の利下げの必要性に係る発言、加えてイラン・イスラエルの地政学リスクの高まりを背景に上下振幅した。米3月雇用統計では雇用者数変化が予想を上回り、失業率も低下した事で米金利が上昇。豪ドルは0.65半ばまで下落後0.66台へ戻した。10日、米3月CPIが予想を上回り、米金利上昇に一時0.65台割れまで急落した。11日、中国国有銀行が中国元の下支えにオンショア市場で大規模なドル売りを行った事で豪ドルは0.65台半ばまで回復。12日「イスラエル、数日中にイランから直接攻撃もと警戒」との報道に0.64台半ばまで急落した。15日、今度はイスラエル国防相がイランに対して報復するとの報道を背景に0.6440近辺まで下落。16日、0.6440のサポートラインを下抜けし0.6409まで下落。中国1～3月期GDPが予想を上回るも豪ドルの買い材料とはならず、パウエルFRB議長が利下げを急がない姿勢を示唆したことで米短期金利が急上昇し、ドルが買いから0.6390まで急落した。18日、豪3月雇用統計は雇用者数が予想外に減少し、失業率は前月から小幅上昇した。加えて米新規失業保険申請件数と継続受給者が共に予想を下回ったことでドルが買いとなった。更にウィリアムズNY連銀総裁の「今後利上げの可能性も否定できない」との発言を受けて一段とドル買いが強まり、豪ドルは0.6417まで下落した。19日、イスラエルによるイラン攻撃の報道が流れるとリスク回避の流れから年初来安値を更新し、一時0.6363まで下落。但し即0.6420近辺まで買い戻された。23日、豪4月PMIが前回を上回り、軟調な米4月PMIを受けて0.6490まで上昇。24日、堅調な豪1月～3月期CPIを背景に金利先物市場が織り込み年内の利下げが1回以下となり、豪ドル買いから0.6530まで上昇。25日、強い米1月～3月期PCEコアを受けて米国の根強いインフレが意識されると米金利が上昇。26日は序盤は豪ドルが堅調に推移するも、堅調な米3月コアPCE価格指数を背景にドル買いから0.6530近辺まで下落。月末にかけてクロス円主導で買いが優勢となり、豪ドル円は2013年以来の高値104.94円を記録。東京祝日で流動性が低い中、ドル円が一時160.24円を記録した後、154円台半ばまで急落。本邦当局が為替介入を行ったとの憶測が広がった。豪ドルは0.6590近辺まで上昇。30日は豪3月小売売上高が前月比でマイナスとなり、月末リバランスや前日からの調整の動きで0.65台前半まで下落した。

■ 今月の見通し

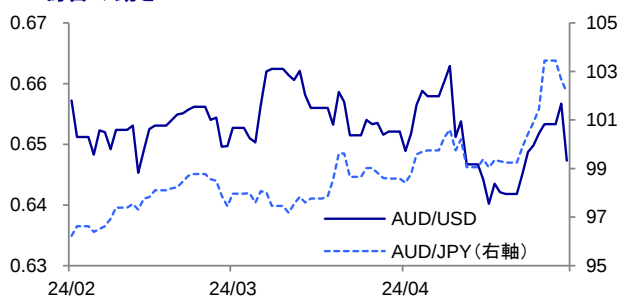
5月の豪ドルは堅調な豪経済指標を背景に下支えされる可能性を予想するが、堅調な米経済データの発表や米FRB高官のタカ派発言が出る場面においては頭を押さえられる可能性を予想する。

4月は序盤、米金利低下や銅や鉄鉱石等資源価格の上昇が豪ドルの下支えとなり、0.66台まで上昇したものの、イラク・イスラエル情勢の緊迫化に伴うリスクオフの動き、加えて米利下げ観測の後退を背景としたドル買いから豪ドルの頭が押さえられる場面が続いた。その後は堅調な豪1～3月期消費者物価指数(CPI)を受けた豪利下げ期待後退で豪ドルが上昇し、0.65台を回復した。米3月雇用統計、及び米3月消費者物価指数(CPI)がいずれも予想を上回る強い結果となった事で米利下げ織り込みも大きく後退した。足元では米・豪いずれも利下げの織り込みが大きく後退しているが、特に豪金利先物では豪3月CPI発表以降、「利上げ」を織り込み始めており、直近では9月までに1回の利上げを25%弱織り込んでいる。但し、依然としてRBAによる利下げ織り込みの後退よりもFRBの利下げ時期後ずれの方の感応度が高い為、今後引き続き堅調な米指標が出るのであれば豪ドルは頭を押さえられ易くなる可能性が高いとみる。

5月の注目材料としては、1日(水)FOMC会合、7日(火)RBA会合、15日(水)豪1～3月期賃金指数、29日(水)豪4月CPI等がある。FOMC会合やRBA会合で更に利下げ期待を削ぐようなタカ派な内容が出てくれば、値幅が広がる可能性も少なくない。この他、豪1～3月期賃金指数が上振れた場合も、RBA利上げ織り込みの進行する可能性に注目したい。また、これまで豪ドルの重しとなっていた中国に関しては製造業が牽引する形で回復の傾向が見られており、外需による貿易黒字拡大から豪ドル買い材料となるとの見方がある。一方で中東情勢緊迫化が継続する公算が大きく、リスクセンチメントの動向次第で大きなプライスアクションが出やすい事からこの点には引き続き留意したい。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/2	RBA3月会合議事録要旨	3月	-	-	-
4/5	貿易収支	2月	A\$10500m	A\$7280m	A\$10058m
4/18	失業率	3月	3.9%	3.8%	3.7%
4/18	参加率	3月	66.7%	66.6%	66.7%
4/18	正規雇用者数変化	3月	-	27.9k	79.4k
4/18	非常勤雇用者数変化	3月	-	-34.5k	38.2k
4/24	CPI YoY	3月	3.4%	3.5%	3.4%
4/24	CPI (前年比)	1Q	3.5%	3.6%	4.1%
4/24	CPIトリム平均値 (前年比)	1Q	3.8%	4.0%	4.2%
4/30	小売売上高 (前月比)	3月	0.2%	-0.4%	0.2%

カナダドル相場

予想レンジ:

USD/CAD 1.3400 ~ 1.3900
CAD/JPY 112.00 ~ 118.00

米州資金部カナダ室 芦崎 瑞穂

■ 先月の為替相場

月初5日カナダ3月雇用統計は失業率が6.1%と予想(5.9%)と前回(5.8%)から上昇。雇用者数は-2.2kと予想(25.0k)と前回(40.7k)から減少した。平均時給の伸びは前年同月比で5.0%と前回(4.9%)から上昇した。一方の米3月雇用統計では失業率は3.8%と予想と一致し、前回(3.9%)から低下。非農業部門雇用者数は303kと前回(270k)から増加し、米労働市場の底堅さが示された。USD/CADは1.36台半ばへと急伸。10日発表の米3月消費者物価指数は市場予想を上回る強い結果となり、FRBで予定されている今年3回の利下げが2回になるとの予想が強まった。同日行われたカナダ中銀政策金利決定会合では政策金利が予想通り5.0%に据え置かれた。カナダ中銀が今夏の利下げの可能性を示唆したことでカナダドル売りが進みUSD/CADが1.3703へと値を伸ばした。16日カナダ3月消費者物価指数(CPI)は前年比2.9%と予想と一致、前月比は0.6%と予想(0.7%)を下回り低下。中銀が重視するコアインフレのトリム平均値と中央値も予想を下回り、インフレが軟化したことが示された。カナダ中銀の6月の利下げ開始観測が高まり、カナダドル売りが進んだ。またパウエルFRB議長がインフレ2%の回帰を確信するには、これまで予想していたよりも長い時間が必要になる可能性が高いとの見解を示し、米長期金利が上昇。更に地政学リスクの高まりによるUSDドル買いも相まってUSD/CADは1.3846を付ける場面が見られた。その後は原油価格上昇に資源国通貨であるカナダドルが強含みで推移しUSD/CADは1.37台へと値を下げた。23日米4月総合購買担当者景気指数(PMI)速報値が製造とサービスの両分野で減速し、4カ月ぶりの低水準となり、USD/CADは1.36台半ばへと続落。24日カナダ2月小売売上高が前月比で0.1%減少し、2か月連続でマイナスとなった。コア指標も予想を大幅に下回り、個人消費の低迷が示された。カナダドル売りが優勢となりUSD/CADは1.37台前半へと反発。26日米個人消費支出(PCE)価格指数は前年同月比で2.7%上昇し予想(2.6%)と前回(2.5%)を上回る強い結果となった。変動の大きい食品とエネルギーを除いたコアPCE価格指数も、前年比2.8%と予想(2.7%)を上回ったが、市場はより高い指数を予想していたことから、その反動で米国債利回りは低下。指標発表後USD/CADは1.3636まで下落。月末はFOMCの前に積極的な取引は控えられ、USD/CADは1.36台半ばでの狭いレンジで推移した。

■ 今月の見通し

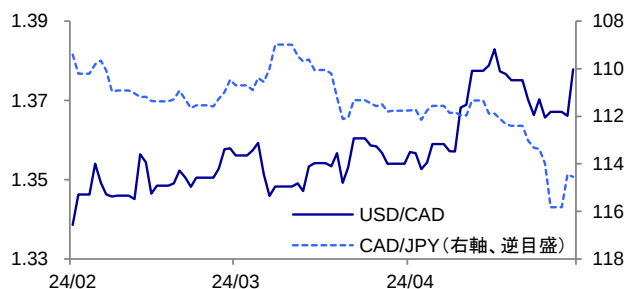
4月10日に行われたカナダ中銀金融政策決定会合では、政策金利が予想通り5.0%に据え置かれた。四半期ごとに公表する金融政策報告書では、移民の流入と家計支出の増加が牽引するとし、2024年の成長率見通しを上方修正した。利下げ時期についての明確な発言はなかったが、インフレ率が中銀の目標範囲へと低下していると、今夏に利下げを開始する可能性があるとの言及があった。6月に予定されている次回会合での利下げの可能性も否定しなかったが、インフレ率が継続して低下していることを確認する必要があるとの慎重姿勢が示されたことから、市場では7月の利下げ開始の予想が高まっている。ガソリン価格が上昇し、インフレ率は今後数カ月で3%前後にとどまる可能性が高いと予想されるが、今年後半には2.5%を下回り、2025年には2%の目標に達するとインフレ率の予測が下方修正された。中東の紛争を背景に原油価格が昨年10月の高値を更新し高止まりしている。地政学的リスクの高まりにより、世界中で高水準の金が購入され、カナダからの金の輸出が急増したことから2月の貿易収支は予想を大きく上回る黒字となった。また2月の製造業売上高でも、石油・石炭製品が大きく寄与した。原油高は資源国通貨であるカナダドル買いの好材料となっており、USDドル上昇の重しとなっている。16日に発表される4月の消費者物価指数(CPI)には大きな注目が集まっている。労働市場が軟調で、個人消費が弱いことから、一部のエコノミストはインフレが4か月連続で低下していることが確認できれば、カナダ中銀は6月の政策金利引き下げを検討すると予測している。4月10日発表の米3月CPIは前月と同水準の高い伸びとなり、FRB関係者から早期利下げを牽制する発言が続いている。雇用統計では失業率が低下し米労働市場が堅調であり、個人消費と投資支出も強いことから、市場ではFRBの今年の利下げは1回となり、9月に行われるとの予想が高まっている。引き続き米加両国の金利差拡大や地政学リスクの高まりによるリスク回避でのUSDドル高圧力は強い。中東情勢の緊張が一時的に緩和されたものの、投資家の間では地政学リスクが懸念事項となっており、輸送コストや原油価格の上昇が予想されている。資源国通貨であるカナダドル買いにUSDドル上昇は限定的になるとも推測され、今月のUSD/CADは1.35-1.39での推移を予想する。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地のお祭り事情』
カナダで有名なお祭りと言えば、Montreal Jazz Festival、The Calgary Stampede、Celebration of Light、などが挙げられます。“Montreal Jazz Festival”は毎年6月下旬から7月上旬にかけてケベック州モントリオールで開催されます。30ヶ国以上の国から約3,000人のアーティストが参加し、650以上のコンサートが開催されます。世界最大のジャズ・フェスティバルとして2004年にギネス世界記録にも認定されています。“The Calgary Stampede”は毎年7月にアルバータ州カルガリーで10日間にわたって開催されます。「地球上で最も偉大な野外ショー」とも言われおり、毎年100万人以上の来場者を魅了し、ロデオショーや、パレード、ステージショー、コンサート、チャックワゴンレース、先住民の展示会などが楽しめます。“Celebration of Light”は、ブリティッシュコロンビア州バンクーバーで毎年7月に開催される音楽と花火の祭典。バンクーバーで最も有名なフェスティバルの1つであり、世界で最も長く続いているオフショア花火大会とされています。ここカナダの最大の都市であるトロントで有名なフェスティバルの一つは、毎年9月に開催されるToronto international film festivalです。例年300以上の作品が上映され、多くのオスカー受賞作が先行して公開されます。また7月1日のカナダデーでは全国各地でフェスティバルが開催されます。当日はカナダの国旗の色に使われている赤と白の服や帽子を身に着けている人や、カナダの国旗のフェイスペイントをした子供たちを多く見かけます。ライブミュージックやパレード、バーベキューなどのアウトドアイベントも沢山催され、夜になると花火を打ち上げてお祝いすることが恒例となっています。

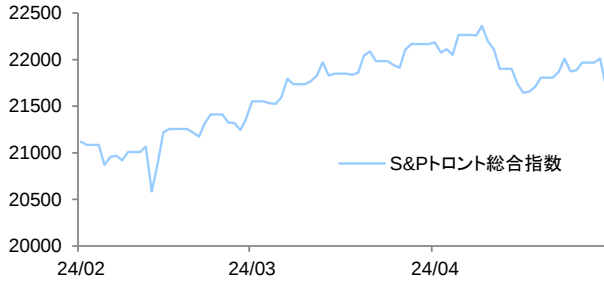
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	S&Pグローバル・カナダ製造業PMI	3月		49.8	49.7
4/4	貿易収支	2月	0.68b	1.39b	0.61b
4/5	雇用ネット変化率	3月	25.0k	-2.2k	40.7k
4/5	失業率	3月	5.9%	6.1%	5.8%
4/10	住宅建設許可(前月比)	2月	-4.5%	9.3%	12.9%
4/10	カナダ銀行翌日物貸出金利		5.00%	5.00%	5.00%
4/16	住宅着工件数	3月	243.5k	242.2k	260.0k
4/16	CPI(前年比)	3月	2.9%	2.9%	2.8%
4/16	CPI 季調前(前月比)	3月	0.7%	0.6%	0.3%
4/24	小売売上高(前月比)	3月	0.1%	-0.1%	-0.3%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW	1350	～	1400
KRW/JPY	10.99	～	11.63
JPY/KRW	8.60	～	9.10

(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

東アジア資金部ソウル資金室 山内 脩平

■ 先月の為替相場

4月のドル/ウォン相場は急騰。月初のドル/ウォンは1,344.0ウォンでオープンした後、底堅い推移。米金融政策動向を警戒したドル買いにより、ウォンが弱含む場面が見られた。パウエルFRB議長からは利下げを急がない姿勢が示され、2日に1,356ウォンまで上昇し年初来高値を更新。しかし、同水準では当局による為替介入への警戒などが重しとなり、週半ばにかけて1,340ウォン台前半まで戻した。4日海外時間にはイランとイスラエルの間での緊張高まりを受けたドル買いに、5日にドル/ウォンは再び1,350ウォン台を回復した。

翌週初は韓国総選挙や米CPIを控え1,350ウォン台で小動き。10日の韓国総選挙では与党が惨敗するも、為替相場への影響は限定的。米3月CPIが市場予想を上回る内容に米国の6月利下げ期待が後退。米金利が上昇推移する中で、翌11日のドル/ウォンは1,360ウォン台に上昇した。更に翌日のECB会合では6月利下げが意識されたことで一段とドル買いが進んだ。12日のBOK会合では10会合連続で政策金利の据え置きが決定されるも、足許のウォン安進行に関して特段強い警戒が示されなかったことで更にウォン安が進行。1,375.5ウォンまで年初来高値を更新した。

更に週末14日にイランがイスラエルに向けた大規模な攻撃を行ったと報じられ、翌15日にリスクオフの動きからドル/ウォンは1,380ウォン台でオープン。16日朝方は1,390ウォン台に上昇した後、人民元が基準値発表後急速に下落するとウォンも連れ安となり一時1,400.0ウォンの高値をつけた。17日には日・米・韓財務相会談が開催され、ウォン安・円安への強い懸念が示されると、為替介入への警戒感からウォン安進行は一服し1,370ウォン台前半まで戻した。しかし、週末にかけてFRB高官からタカ派な発言が見られたことや、イスラエルがイランに攻撃を実施したとのヘッドラインから再び1,390ウォン台へのウォン安が進むなど荒い値動きが継続した。その後週末に中東の緊張が緩和されたことで1,370ウォン台半ばでオープン。韓国企業配当金の海外送金需要から一時1,380ウォン台に上昇する場面が見られたものの、1,370ウォン台を中心とした値動きが続いた。24日には米金利の上昇が一服したことで、1,360ウォン台後半まで下落。しかし、25日には再び1,370ウォン台後半での推移となった。月末付近ではFOMCが迫る中で、やや方向感を欠いた。

■ 今月の見通し

5月のドル/ウォンは底堅い推移を予想。

米国の利下げ開始時期を巡る不確実性が増し、米金利は上昇し、ドルは強含む推移。日・米・韓による財務相会合以降、当局者からはウォン安進行について強くけん制するメッセージの発信が行われており、1,400.0ウォンの節目に到達してからは上昇が一服し、1,370ウォンから1,380ウォン前後での推移が続く。

4月12日に開催されたBOK会合における声明文では抑制的な金融政策を「十分に“長い”期間」から「十分な期間」に修正。年後半の利下げ開始を意識させる内容となった。一方で、米国の利下げ開始が後ずれする中、韓国の早期利下げ着手はウォン相場にも少なからずマイナスの影響になると思われる、当面韓国の政策金利は現状維持を見込む。

4月25日に発表された韓国第1QGDPは前年同期比+3.4%と市場予想を大幅に上回る成長を見せ、輸出の回復と建設投資の伸びが牽引した。足許好調な輸出については、3月も前年同月比+3.1%の伸びを記録。主力品目である半導体輸出額はAI関連投資拡大による需要増により116.7億ドルと21か月ぶりの最高額を記録。韓国経済の回復はウォン相場にとって追い風となるもドル高継続が予想される中、5月のドル/ウォンの下値は限定的となろう。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

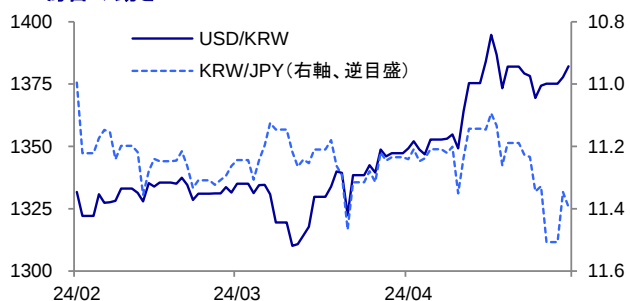
『当地のお祭り事情』

お祭りというよりはフェスティバルですが、昨年大邱で開催されているチメクフェスティバルに行ってきました。チメクとはチキンとビール(韓国語でメクチュ)の造語であり、有名歌手の講演やDJによるEDMパーティーが開かれている傍らでチキンとビールを楽しむというものです。メイン会場には韓国の有名チキン店のブースが並んでおり、いろいろなチキンを味わう事ができます。また、開催時期は夏場ということもあり、野外で飲むビールは格別の味です。

ガイドブックなどを改めて見返すと、伝統的な祭りも数多くあるようなので、今年はそういった祭りも見に行きたいと思います。

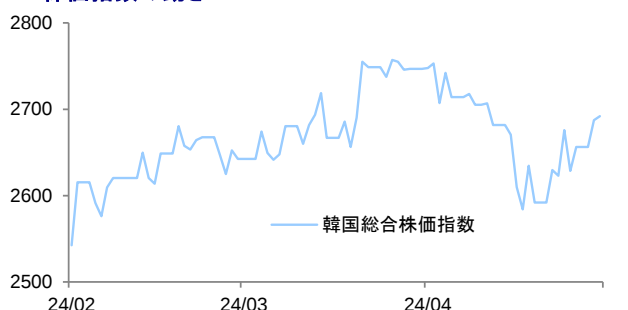
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	貿易収支	3月	4800M	4280M	4290M
4/1	輸出(前年比)	3月	4.2%	3.1%	4.8%
4/1	輸入(前年比)	3月	-10.9%	-12.3%	-13.1%
4/2	CPI(前年比)	3月	3.0%	3.1%	3.1%
4/12	失業率	3月	2.8%	2.8%	2.6%
4/12	BOK政策金利	3月	3.5%	3.5%	3.5%
4/24	消費者信頼感	4月	-	100.7	100.7
4/25	GDP	1Q	2.5%	3.4%	2.2%
4/30	鉱工業生産(前年比)	3月	4.6%	0.7%	4.8%

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 32.00 ~ 33.00
TWD/JPY 4.65 ~ 4.90

東アジア資金部台北室 久本 和樹

■ 先月の為替相場

4月のドル/台湾ドルは上昇した。

月初の4月1日は31.920でオープン。月初に発表された米3月ISM製造業景況感指数や、米2月製造業受注等の経済指標が堅調だったことを受けて、ドル買いが進み32.10近辺まで上昇。その後、米3月CPIの発表を控えて米利下げ期待が再燃していたことを受けて、ドル売り圧力が強まり一時31.950まで下落した。

月央になると、12日に実施された韓国議会選における与党大敗を受けアジア通貨売り圧力が高まり、32.20近辺まで上昇。その後、15日に発表された米3月小売売上高が市場予想を上回る堅調な結果となっていたことや、中東情勢の悪化を受けてドル買いが進み32.50近辺まで上昇した。18日には、日米韓の財務相会合実施が報じられ、為替介入への警戒感の高まりからアジア通貨が買い戻される展開となり、32.35近辺まで下落した。

月後半に入ると、19日の「イスラエルからイランへ直接攻撃が実施された」との報道を受けてリスク回避的な動きが広まり、ドル買いが進み一時32.675まで上昇した。その後もドル円が心理的な節目である155円を上抜けていたことを受けて、アジア通貨全般に売り圧力ががかかっていた一方、月末にかけては外国人投資家による台湾株買いフローや、輸出業者によるドル売りフローなども見られていたことで、売り買い交錯となり、32.60を挟み揉み合う展開となった。

■ 今月の見通し

5月のドル/台湾ドルは揉み合いの推移を見込む。

4月は米国経済指標が堅調となっていたことで、FOMCによる年内利下げ見通しが剥落した他、中東情勢の悪化や日銀による緩和姿勢の維持を受けて、ドル買い、アジア通貨売り圧力が強まり、ドル/台湾ドルは上昇する展開となった。

5月のドル/台湾ドルについては、揉み合いの展開を見込む。米国においてはFOMCにおいて年内の利下げ開始時期が年央から年後半に後ろ倒しとされることが予想されるが、すでに市場に織り込まれている。また、台湾における金融政策決定も予定されていないことから、金融政策の観点で大きく相場が動くことは期待されづらいであろう。また、半導体サイクルの回復に伴い台湾の貿易収支改善は期待されるものの、米国への投資資金送金も根強く見られている状況下、資金需給の観点でも売り買い交錯となる展開が想定される。その為、ドル/台湾ドルについては方向感無く揉み合う展開となるであろう。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお祭り事情』

当地で人気のお祭りは、「旧正月の春祭り」、「ランタンフェスティバル」、「バルーンフェスティバル」です。

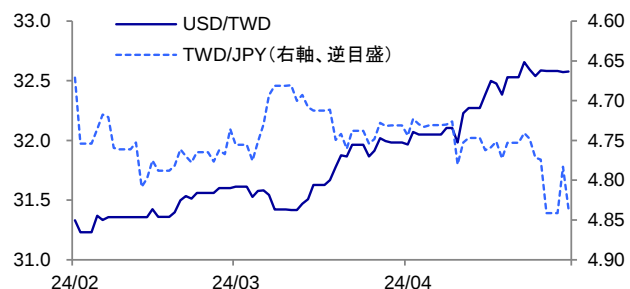
台湾の重要な祭りとして祝われるのが、旧正月の春祭りです。旧正月は旧暦の初日に始まり、祭りの一環として春の大掃除が開催されている他、寺院でアクティビティが開催されることも有ります。

元宵節の期間中に台湾各地で行われるのが、ランタンフェスティバルです。当初、台北スカイランタンは待ちの安全を部外者に知らせるために始まったとされていますが、一度に数千個のスカイランタンが点灯する景色は非常にきれいで有名になっています。

最後にご紹介するのが台湾国際バルーンフェスティバルです。このお祭りは夏に開催されますが、様々なキャラクターの気球が飛び、気球の体験も可能な他、コンサートやウェディングのお祝いなど迄実施されるような、盛大なお祭りとなっています。

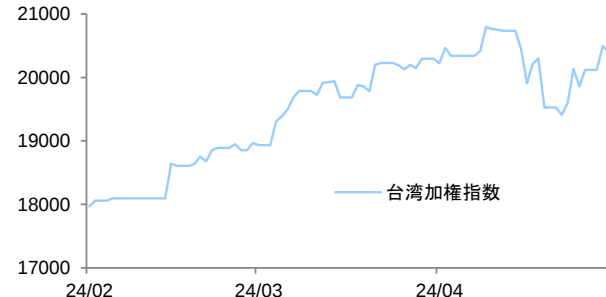
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	外貨準備高	3月	-	568.10B	569.42B
4/9	CPI (前年比)	3月	2.51%	2.14%	3.08%
4/10	輸出 (前年比)	3月	8.50%	18.90%	1.30%
4/10	輸入 (前年比)	3月	-2.40%	7.10%	-17.80%
4/10	貿易収支	3月	7.66B	8.68B	7.89B
4/22	輸出受注 (前年比)	3月	3.55%	1.20%	-10.40%
4/22	失業率	3月	-	3.40%	3.40%
4/23	鉱工業生産 (前年比)	3月	-	3.99%	-1.10%

(資料) ブルームバーク

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.8300 ~ 7.8450
HKD/JPY 19.10 ~ 19.80

東アジア資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【4月の香港ドル直物相場】

米国消費者物価指数(CPI)の強い結果や連邦準備制度理事会(FRB)のタカ方針転換を受けて米ドル買い圧力が強まり、4月の香港ドル直物相場は7.83レベルを上回って推移した。米国内のインフレ高止まりによりFRBが政策金利を長期間据え置く事が見込まれており、政策金利の更なる引き上げが起るリスクも市場では囁かれている。米ドル高を背景に、米ドル買い/香港ドル売りのキャリートレードの妙味も増していることも香港ドル直物相場の下落に繋がった。また、FRBが政策金利引き下げ時期を後ろ倒しにするという観測が強まる中、香港ドルのフォワードポイントもディスカウント幅を拡大している。株式市場に目を向けると、ハンセン株式指数はレンジ推移を継続する一方で、ストックコネクト(中国本土市場との株式相互取引制度)による資金流入が回復したことは少なからず香港ドル直物相場を下支えた。一方で、香港株式市場のIPO活動が限定的であることや、不動産市場が低迷する中、株式市場や不動産市場を起点とした香港からの資金流出懸念は引き続きくすぶっている。上記に加えて中国本土への越境消費活動が増えたことや観光需要の回復の弱さから域内消費活動が低迷しており、香港の経済成長に対する懐疑的な見方は香港ドルへの重しとなっている。

【4月の香港ドル金利市場】

短期の香港ドルHIBORカーブは四半期末の季節要因で上昇していた分が巻き戻され、1か月物は4.1%、3か月物は4.5%まで低下した。米政策金利が現水準で長期的に据え置かれるという見通しが短期の香港ドル金利へ与えた影響は微小にとどまったように見えるが、カーブ全体でみると流れは上昇方向に変わっている。一方で香港ドルの流動性は潤沢な状態を保っており、HKMAによる香港ドル買い為替介入は起こらなかったことから、アグリゲートバランスは450億香港ドル近辺に留まっている。また、低迷するIPO活動や香港ドル借入れの需要低下は米ドルとの金利差を拡大させた。それでもFRBの利下げ見通し後退を受けて少なからず短期金利が上昇した為、香港ドルスワップ金利のキャリートレード(3年固定金利払い、3カ月物香港ドルHIBOR受け)は+60bpから+20bpまで低下した。

■ 今月の見通し

【5月の香港ドル直物相場】

足許の米CPIの結果を考慮し、FRBがよりタカ的なスタンスを強めることが見込まれる中、香港ドル直物相場は今後1か月7.83レベル以上で推移すると考えている。米ドル金利が高止まりすれば米ドル買い/香港ドル売りのキャリートレードを狙うフローが一段と増え、香港ドル直物相場を押し下げられるだろう。ただし、5月下旬には香港株式市場に上場している中国企業の配当シーズンに入ることから、実需の香港ドル調達優勢となり、香港ドル直物相場を下支える可能性はある。また、現在進んでいる大型IPO案件も同様に香港ドル直物相場の上昇圧力となる可能性があることには注意する必要があるだろう。しかし、それらを加味したとしても外国人投資家は対中、対香港投資に慎重な姿勢を続けており、低迷する香港不動産市況も相まって香港ドルの弱気相場を根本的に覆せはしないだろう。市況によって香港ドル資金需要も引き続き低迷したままだろう。

【5月の香港ドル金利市場】

香港ドルの潤沢な市中流動性の状況は続く見込みであることから、HKMAのアグリゲートバランスは同水準を維持する見通しである。FRBが利上げサイクルの再開をしない限り、香港ドル直物相場はHKMAによる香港ドル買い為替介入が行われる7.85レベルには到達しないだろう。また、IPO活動や配当金の支払いが活況となる第2四半期後半まで短期香港ドル金利の動きは限定的となる見込みだ。一方で米ドルベッグ制のもと、中期的な目線としては、香港ドル金利はFRBが利下げをに自信を持てるようなデータが出揃うまで、高止まりした状態が続くと予想する。

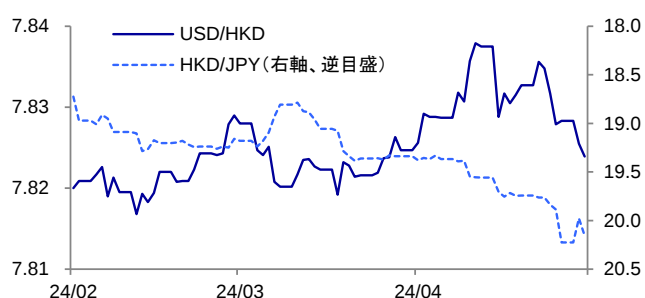
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお祭り事情』

香港は東洋と西洋の文化が混ざり合った国際都市ということもあり、年間を通じて多くの祭りが開催されます。1月から2月にかけては中国の新年である旧正月が祝われます。街はカラフルに装飾され、獅子舞やドラゴンダンス、花火などで雰囲気は祭り一色になります。さらに、家族で集まって伝統的な食事を楽しんで寺院に赴き幸運を祈ります。夏になるとドラゴンボート祭りも盛り上がります。太鼓の音に合わせて奮闘する各チームや、歓声を上げる観客も見ものです。ちなみに過去にはくみずほもチームを派遣した事があります。加えて、ドラゴンボート祭りでは、ちまきを食すというのも一つの特徴です。秋ごろには、中秋節で家族で集まり月餅を食べながらお月見を楽しみます。中秋節の最中は堤灯が街中に飾られ、ドラゴンダンス等の文化的な催しも多く見ることが出来ます。次に年末が近づく、クリスマスシーズンとなります。香港人はクリスマスを全力で楽しむ文化があり、市内のショッピングモールや街中などはツリーが飾られるなどクリスマス一色になります。セントラル、尖沙咀や銅鑼湾などの人気の繁華街エリアでは特に装飾が壮大で幻想的であり、まるで魔法の世界にいるような感覚になります。

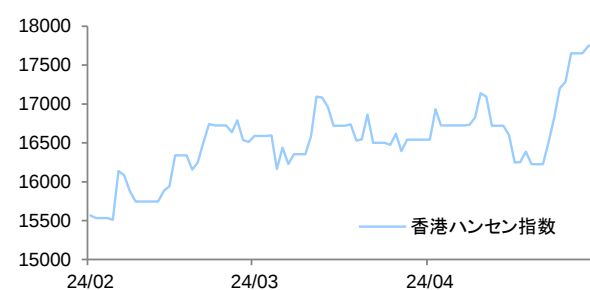
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	小売売上高(価額前年比)	2月	4.8%	1.9%	0.9%
4/5	S&P Global Hong Kong PMI	3月	-	50.9	49.7
4/9	外貨準備高	3月	-	\$423.6b	\$425.1b
4/18	失業率(季調済)	3月	2.9%	3.0%	2.9%
4/23	CPIコンボジット(前年比)	3月	2.1%	2.0%	2.1%
4/25	輸出(前年比)	3月	2.3%	4.7%	-0.8%
4/25	輸入(前年比)	3月	2.4%	5.3%	-1.8%
4/25	貿易収支(HKD)	3月	-45.7b	-45.0b	-41.7b

中国人民元相場

予想レンジ: USD/CNY 7.1500 ~ 7.2500
CNY/JPY 20.70 ~ 22.70
100JPY/CNY 4.4000 ~ 4.8300

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 竹本 寛

■ 先月の為替相場

ドル人民元(USDCNY)は底堅い推移となった。

1日を7.22台でオープン。強い米3月ISM製造業景気指数の結果を受けたドル高の動きに2日には7.23台後半まで上伸。清明節を挟み、8日以降も7.23台を中心とした推移が継続。10日に発表された米3月CPIが市場予想を上回る強い結果を示すと、米利下げ期待の後退を背景に米金利上昇、ドル全面高の展開。オフショアUSDCNHは7.26台へ上値を伸ばす形となったが、オンショアUSDCNYは日中レンジ上限付近で上昇を止められる格好となって、7.23台後半での推移となった。

16日、7.09台での設定が続いていたPBOC基準値がおおよそ3週間ぶりに7.10台(7.1028)に設定されたことを受けて、日中レンジ上限が7.24台へ引きあがると、実勢相場も7.24台乗せを伺う動き。FED高官らのタカ派な発言も伝わり、米利下げ開始時期の後ずれ観測が高まる中、22日には終値ベースで7.24台に乗せた。23日、中国国債売買に関する一部観測報道を受けて金融緩和期待が強まったことで7.24台後半へ上昇。25日の米1QコアPCEの強さを受けて米利下げ期待がさらに後退する中でUSDCNYは底堅さを維持、本欄執筆時点では7.24台後半で推移している。

■ 今月の見通し

USDCNYは高値圏での推移が継続することを予想する。

現時点で中国の経済環境、金融政策に大きな方向転換が見えない以上、USDCNYの最大下落要因となるのは米国利下げとなる。しかしながら、年初に2024年6月頃の利下げ開始を織込んでいた市場の思惑は、好調な米経済指標を受けて足元では12月まで後退するに至っている。FEDのボードメンバーからも利下げを急がない主旨の発言が聞かれる中、4/30-5/1に控えるFOMCに注目が集まるが、スタンスのタカ派傾斜は避けられないだろう。

USDCNYに対しては上方圧力がかかりやすい地合いが想定されるが、中国当局の逆周期因子(反循環的調整要因)を用いた元高方向への基準値設定により、日中変動幅の上限を強力に制限することで元安の動きを防衛している。年初来、7.10前後での基準値設定を継続することで、値幅上限は7.25を超えない形で推移している。4月18日、PBOCは一方向の動きや過度なボラティリティに対応する旨を再度表明、朱PBOC副総裁兼SAFE(外貨管理局)局長は「人民元の為替レートを安定維持するという目標と決意は変わらない」と述べるなど、当局の姿勢を鑑みると、年初から防衛してきたラインを安易に譲ることは想定しづらい。

オンショア・オフショアのレート差がさらに拡大することで、元安圧力が高まってくるとPBOC基準値の設定水準の上方修正に警戒したいが、オンショアUSDCNYについては目先7.25のラインが防衛されることをメインシナリオとしたい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお祭り事情』

中国の旧暦5月といえば端午節です。新暦では今年は6月10日にあたります。そして、端午節に実施されるお祭りといえば龍船節(ドラゴンボートフェスティバル)が有名です。スピード感のある長いボードが勢いよく進んでいく様は迫力があります。

ただ、この龍船節の起源(※)を調べてみると意外と悲しい物語があったようです。楚に仕えた政治家・詩人である屈原という人物がいました。楚の王が秦と同盟を結んだ際、これに反対した屈原は左遷。そのおよそ30年後に秦が同盟を破棄して楚を侵略、そして楚は滅亡しましたが、屈原はこれに絶望して入水自殺を図りました。屈原を深く尊敬していた地元住民は、先を争って船を出して救出に向かったといわれます。これが龍船レースの始まりのようです。

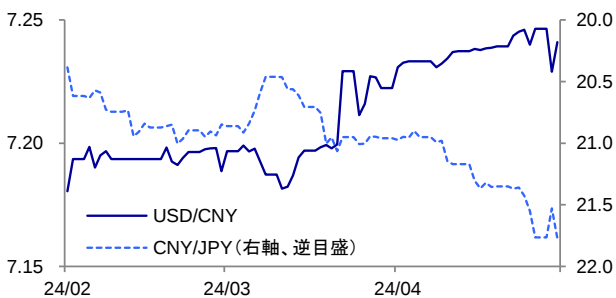
結局、屈原は見つけられなかったのですが、その遺体を魚が食べないようにもち米を固めて川に投げ込んだとされ、これが現在の「ちまき」に繋がっているとのこと。

端午節は美味しいちまきをひたすら食べるだけのイベントだと勝手に思い込んでいましたが、長い時代を経て受け継がれてきた文化には、そこに至る歴史的背景があることを知り、中国の歴史のロマンを少し垣間見た気がします。

(※) 上記の起源には諸説あり。

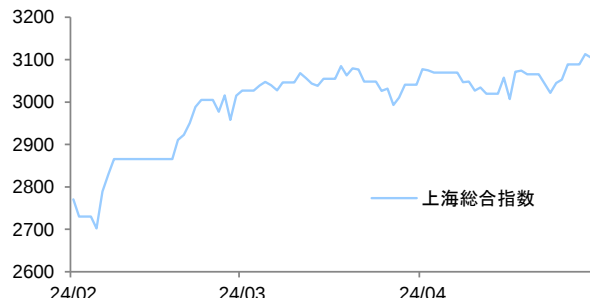
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	財新製造業PMI	3月	51.0	51.1	50.9
4/3	財新非製造業PMI	3月	52.5	52.7	52.5
4/11	PPI(前年比)	3月	-2.8%	-2.8%	-2.7%
4/11	CPI(前年比)	3月	0.4%	0.1%	0.7%
4/12	貿易収支	3月	\$69.10b	\$58.55b	\$75.08b
4/16	GDP(前年比)	1Q	4.8%	5.3%	5.2%
4/16	鉱工業生産(年初来/前年比)	3月	6.6%	6.1%	7.0%
4/16	小売売上高(年初来/前年比)	3月	5.4%	4.7%	5.5%
4/16	都市部固定資産投資(年初来/前年比)	3月	4.0%	4.5%	4.2%
4/22	LPR1年物	-	3.45%	3.45%	3.45%

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3400 ~ 1.3800
SGD/JPY 110.00 ~ 118.00

アジア・オセアニア資金部 松本 彩花

■ 先月の為替相場

先月のUSD/SGDは上昇。
月初1日、USD/SGDは1.34台後半でオープン。同日発表の米3月ISM製造業景況指数が予想を上回るとドル買いが優勢となり、1.35台前半まで上昇。その後は3日発表のISM非製造業景況指数等の月初発表の米経済指標の結果が弱含んだことからドル高の流れが一服。5日、非農業部門雇用者数が予想を大幅に上回り、米3月雇用統計の力強い結果が示されると、USD/SGDも一時上昇する場面が見られたが流れは継続せず、9日には1.34台前半まで下落した。

10日、注目の米3月CPIが事前予想を上回る結果となったことで米金利が上昇。USD/SGDも1.34台前半から1.35台前半まで急伸する展開に。12日、MAS会合にて4会合連続の金融政策現状維持が決定されるとSGD売りで反応し、USD/SGDは1.36台前半まで上昇した。月半ばにかけては好調な米経済指標やFRB高官のタカ派発言を背景にドル買いの流れが継続し、16日には一時1.36台後半をつけた。

17日、高水準で推移していた米金利が低下したことや、海外時間にて発表された「為替の過度な変動は経済に悪影響を与える」とのG7共同声明を受けて、対ドルでのアジア通貨全般が上昇する流れに。USD/SGDも翌18日にかけて1.35台後半まで緩やかに値を切り下げた。その後は強弱入り混じる米経済指標を背景にUSD/SGDも一進一退の値動きとなった。

23日、シンガポールの3月CPIが発表され前年比2.7%と予想対比弱い結果となったものの、相場への影響は限定的。月末にかけては相場の方向感乏しく、新規材料待ちの状況に。USD/SGDは1.36を挟んだ小幅な値動きに終始した。

■ 今月の見通し

今月のUSD/SGD相場は引き続き底堅い推移を予想。

先月はシンガポールにおいてMAS会合が実施されたが、事前予想通り金融政策の現状維持が決定された。現状維持は前回1月会合に続いて4会合連続となった。現在の金融政策については、輸入インフレおよび国内コスト圧力に対する抑制効果を維持するために必要であり、中期的な物価安定を確保するために十分な方法であるとの評価を示している。今後の金融政策を考える上では、インフレ動向が重要となってくるが、発表された2月CPIでは前年比+3.4%となり、コアCPIについては+3.6%と2023年7月以来の高水準を示す結果となった。今後については輸入及び国内コスト圧力の弱まりを受け今年後半低下するとの見通しを示しており、基本的には次の動きとしては金融緩和方向の動きとなるとは考えているものの、依然としてインフレ懸念が残る中では次回会合で緩和方向に政策変更をする可能性も現時点ではさほど高くはなさそうだ。

一方、米国においては早期利下げ観測が後退している状況。先月発表された米3月雇用統計や米3月小売売上高において良好な結果が示されたことや、パウエルFRB議長をはじめとする複数のFRB高官から早期利下げに対して慎重な発言が続いていることが背景にある。注目のインフレ動向についても米3月CPIは前年比+3.5%となっており2月の同+3.2%から加速している状況。2024年の年始のタイミングではマーケットにおいて年内5～6回の利下げが織り込まれていたが、足元では1～2回まで低下しており、ここからよほど急速にインフレが落ち着かない限りは早期利下げ観測は高まりにくい状況が続きそうだ。

以上の通り、両国とも短期的には現行の金融政策が維持される見込みが高いと考えているが、足元では米金利の巻き戻しを背景としたドル買いが強まりやすい環境であることを踏まえるとUSD/SGDは底堅い推移となると予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお祭り事情』

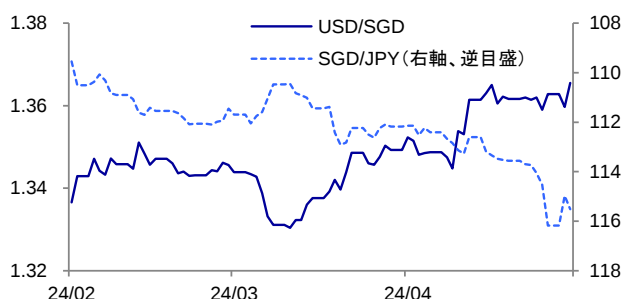
シンガポールにおける一大イベントとしてあげられるのは8月のナショナルデー。いわゆる独立記念日にあたるものですが、ナショナルデー当日が近づいてくると街中や建物等いたるところで国旗を見かける機会が増えるなど国内全体で非常に盛り上がりを見せます。

ナショナルデーの特徴としては当日だけでなく6月頃から始まるリハーサルも楽しめることが挙げられます。リハーサルが始まるとヘリコプターや戦闘機が飛んでいる光景を見ることができますが、人気なのは花火。ただし、私が昨年リハーサルの花火を見に行った際は、リハーサルとは言ってもかなりの人混みとなっていましたので注意が必要です。

リハーサルでの人混みが多すぎたため、私は昨年のナショナルデー当日は会場の近くまでいって少し雰囲気を楽しんでから花火を見ずに帰ってしまいましたが、当日驚くのは多くの人がシンガポールの国旗のカラーである赤と白の服を来ていること。シンガポール人のみならず、当地に住む日本人が赤や白の服を来ている光景も良く見かけ、シンガポールにいる人全体で盛り上がる一大イベントですので、人混みが嫌いで無い方であれば夏休みを利用してナショナルデーのイベントに参加するのもよいかもしれません。
(アジア・オセアニア資金部 森谷 友一)

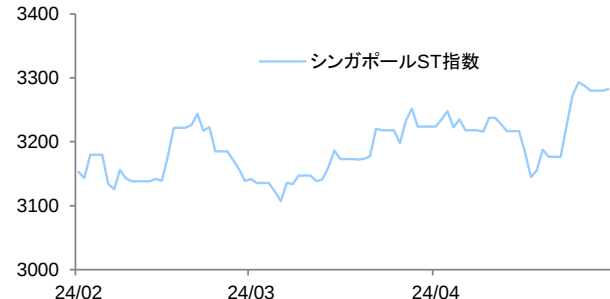
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/5	小売売上高(前年比)	2月	1.9%	8.4%	1.3%
4/17	非石油輸出(前年比)	3月	-7.4%	-20.7%	-0.1%
4/23	CPI(前年比)	3月	3.1%	2.7%	3.4%
4/26	鉱工業生産(前年比)	3月	-1.5%	-9.2%	3.8%

タイバーツ相場

予想レンジ: USD/THB 36.50 ~ 37.60
THB/JPY 4.15 ~ 4.30

アジア・オセアニア資金部 バンコック室 末廣 絢太

■ 先月の為替相場

4月のドルバーツは続伸。終盤には昨年10月以来の37バーツ台を示現。36バーツ台前半の水準で4月の取引を開始したドルバーツは、前月からの流れを引き継いだ動きに加え、強い米国経済指標、米金利上昇等も相俟って月初から底堅く推移。3日、米3月ISM非製造業PMIが市場予想を下回った場面では上昇の勢いが一時弱まったものの、翌日、地政学リスクの高まりを受け、リスクオフ地合いが強まる中で反発した。5日、タイ3月CPIが前年比で▲0.47%と6か月連続マイナスであることが確認されるも、大きなインパクトなく通過。同日海外時間には米3月雇用統計が発表され強い結果となったものの、36バーツ台後半から更なる上値追いつとはならず。寧ろ9日に2025年の予算案をタイ内閣が承認する等、早期の予算成立に向けた動きが見られたことでバーツ買いが加速し、36バーツ台前半まで下落する動きとなった。ただ、翌日には、米3月CPIの強い結果に反応する格好で36バーツ台後半まで急騰する等、荒い値動きが見られる展開に。

中旬、12日からのタイのソンクラン休暇中は米利下げ時期後ずれ観測と地政学リスクの高まり等を背景にドルバーツは底堅く推移。休暇明けも流れは変わらず、米労働関連指標の良好な結果、Fedメンバーによるタカ派な発言等を受けて堅調な推移が続いた。

下旬、上昇圧力にさらされながらも、36バーツ台後半での推移が続いていたドルバーツであったが、22日に節目を突破し、昨年10月以来となる37バーツ台を示現。その後、タイ中銀副総裁から金融政策について「見通しがシフトし、構造的な障害が潜在成長率を低下させる場合には再調整される可能性がある」旨の発言が確認されたこともあり、37バーツ台前半での推移が続いた。ただ、昨年10月に付けた直近高値手前ではその勢いは失速。37バーツを割り込む水準まで値を戻し、本欄執筆時点である26日19時時点では36バーツ台後半での推移が続いている。

■ 今月の見通し

5月のドルバーツは高値圏での推移継続を想定。予想外に強い米国経済を背景とした米利下げ観測の後退を受けて、アジア通貨は全般的に対ドルで弱含む展開となっている。4月24日の予想外のインドネシア中銀による利上げは足もとのアジア通貨の苦境を示していると言えるだろう。かかる中、バーツに関しては対ドルで年初から▲8%弱の下落を見せている。アジア通貨の中でも下落幅の大きさが際立つ通貨となっているが、これは米利下げ観測の後退に加え、タイ国内要因も相俟っての結果と言えよう。そもそも周辺諸国に比べ、金利水準(2.50%)が低いことや、年初から続くタイ政府と中銀の対立構造が意識されていること、デジタルウォレットに代表される景気刺激策に係る財政不安等がバーツ安地合いを助長している。

米国金融政策については、本欄執筆時点ではFOMC(4/30-5/1)の結果は出ていないが、直近の米国経済指標の結果やFOMCメンバーの発言に鑑みれば直ぐにスタンスが変わることは考え難い。タイの金融政策についても、直近4月10日に実施された金融政策委員会において政策金利の維持が決定されたが、直前に首相から利下げ要請があり、結局利下げは行われず、といったパターンが再度見られる展開に。また、声明文からは今後の利下げ可能性に係るヒントは見当たらず、会合後の記者会見では「政府と中銀では金融政策決定において重視している要因が違うのではないか」という旨の発言が確認され、やや突き放した印象さえ与えることとなった。これらを踏まえると、タイ中銀が従来のスタンスを直ぐに変える可能性も低いと言えそう。また、先月末にはタイ中銀が政府に対し景気刺激策の実施について再考するよう書簡を出した、との報道も確認されており、同国財政不安に係る不透明感も拭えない状況。そのような中、足もとの状況が直ぐに変わるとは想定し難く、しばらくドルバーツは足もとの高値圏での推移が続くことを予想している。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお祭り事情』

当地の有名なお祭りは多数あるが、今回はソンクラン(水かけ祭り)を紹介したい。

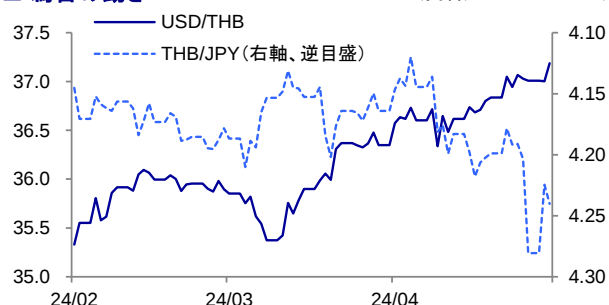
ソンクランとは当地の旧正月のことであり、毎年4月13日～15日は祝日となる。(今年は12日も追加で休日となった)。ソンクランでは仏像や年長者の手に水をかけお清めすることが伝統的な風習として受け継がれているが、現在ではそれが転じて街中で行き交う人たちが水をかけ合う「水かけ祭り」として知られるようになっている。

期間中は大通りや商業施設等でイベントが開催され、当地の若者や観光客を中心に大いに盛り上がる。タイ全土でイベントが開催されるが、バンコクでは中心部のシーロム通りやカオサン通りが盛り上がるスポットとして知られている。今では動画サイト等で実際の様子を見ることもできるので、興味を持たれた方は、ぜひ来年のソンクランに水鉄砲を準備の上、ご参戦頂きたい。

ちなみに、当地の人々は服で自身の思い等を表現することが多いが、ソンクラン前になると、花柄のアロハシャツを着る人が多くなる。ソンクランになじみのない日本人が通勤時に「やけにアロハシャツの人が多いな」となり、少し考えた上で「あ、ソンクランか」となるケースが多数あり、今年、私もその一人であったことは言うまでもない。

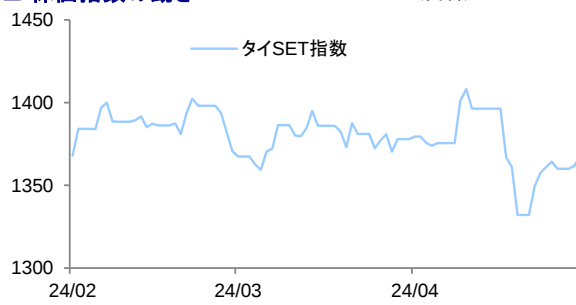
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/5	CPI YoY	3月	-0.40%	-0.47%	-0.77%
4/5	CPI コア YoY	3月	0.40%	0.37%	0.43%
4/10	タイ中銀政策金利	-	2.50%	2.50%	2.50%
4/11	消費者信頼感指数	3月	-	56.9	57.7
4/25	自動車販売台数	3月	-	56,099	52,843
4/29	輸出(通関ベース)YoY	3月	-4.00%	-10.90%	3.62%
4/29	輸入(通関ベース)YoY	3月	6.00%	5.60%	3.16%
4/29	貿易収支(通関ベース)	3月	\$1,000M	-\$1,163M	-\$554M

マレーシアリング相場

予想レンジ:	USD/MYR	4.70	～	4.80
	MYR/JPY	32.25	～	34.48
	JPY/MYR	2.90	～	3.10

マレーシアみずほ銀行 内田 星

■ 先月の為替相場

先月のリングgit相場は米国インフレの高止まりに関する指標発表を材料にドル買いリングgit売りが優勢となり、USD/MYRは再び4.80を目指す展開となった。

上旬については上下にボラタイルな展開。1日発表の米3月ISM製造業景況指数が予想を上回った他、構成項目の支払価格と新規受注も予想以上の伸びを見せる等の強い結果を受け米ドルが上昇、リングgit相場は下落。その後は3日発表のISM非製造業景況指数の結果が軟調であったことやドル高の一眼に伴い相場を戻す展開。米3月雇用統計は堅調な結果となりドル高リングgit安をサポート。10日の米3月消費者物価で市場予想を上回る物価の加速を確認すると市場は素直にドル上昇で反応。また、為替市場でのドル上昇を受けてドル円は34年ぶりの153円台まで急騰。財務省神田財務官による過度な為替変動へのけん制発言もあり市場は介入警戒感が広がり膠着感が強まった。

中旬にかけては一段とリングgit安が進展。米当局者によるタカ派発言と中東緊迫を材料にボラタイルな展開。17日パウエル議長がワシントン開催のカナダ中銀総裁とのパネル講演会でインフレ鈍化の確信を得るには想定以上に時間がかかる旨発言したことが一段のドル高を誘発。一方、19日発表のQ1GDP見込値では+3.9%と約一年ぶり高成長を記録。同日3月貿易統計でも輸出が依然マイナスながらも市場予想を上回った。景気回復を期待する結果でオンショア市場のリスクセンチメントが改善した。

下旬は中東問題を巡るリスク回避姿勢が後退し狭いレンジでの取引となった。中東緊迫によるリスク回避姿勢が継続していたが、イランが報復しないとの報道が伝わり一旦市場は落ち着きを取り戻した。ECBの6月利下げ観測や軟調な米PMI、米GDP、市場予想を上回る米コアPCEなどまちまちな米指標発表でオンショア市場では中銀によるリングgit支えと見られるフローも垣間見られる中、じりじりとリングgitが上昇。25日発表の3月CPIは市場予想を下回る+1.8%、コアインフレ率は+1.7%に下落。また26日の日銀会合は市場でハト派と捉えられ円が急落。ドル円の160円台突破に併せて、リングgitも9年ぶりの33円台に大幅上昇した。

■ 今月の見通し

今月は上旬に日本がGW、中国が労働節で連休がある中で、2日に米国でFOMCが開催されることから、月初から相場の急変動には注意したい。

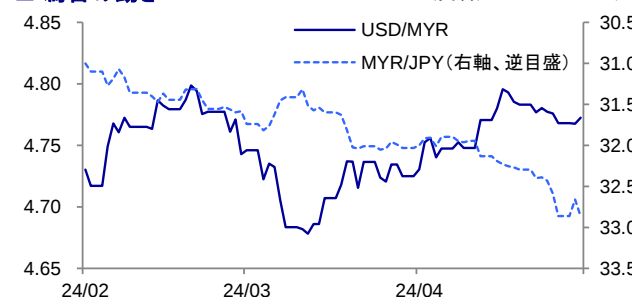
先月発表された米経済指標は、景況感やGDPなど一部で減速を示す内容となった一方、CPIやコアPCEデフレーターなど物価指標は引き続きインフレ高止まりを示す結果。市場参加者による24年内の米政策金利の利下げ見通しは、先月1か月間で約2.7回→1.3回まで減少し、利下げ開始時期は7月から11月まで後退している。一部では年内利下げ見送りの可能性まで議論されている状況となっている。リングgit市場は引き続き米金利に左右される展開が続く中、足許の米指標を確認する限り、外部環境主導でリングgit買い戻しとなる展開は想定しづらい。

また先月26日日銀政策会合で植田総裁が当面の金融緩和と政策維持を発表したことでハト派と見做され、足許ではドル円が連休前の薄商いの中で一時160円を突破する水準に急騰。リングgit円は2015年以来の33円迄急騰している。先月の日米韓による共同声明が公表されたことで、通貨介入の可能性が高まっており、市場でも警戒されている。特に今月上旬は連休が重なり流動性が低下することから、リングgit円のボラタイルな展開には十分注意したい。

一方、国内経済に目を向けると、引き続き国内インフレ懸念が限定的な中、GDPや貿易統計では製造業輸出の持ち直しによる国内経済復調の兆候が期待できる結果が出てきている。マレーシア経済の成長回復が再び見通せる状況となればリングgit買いフローの戻りが期待できることから、今後の国内指標発表には注目したい。

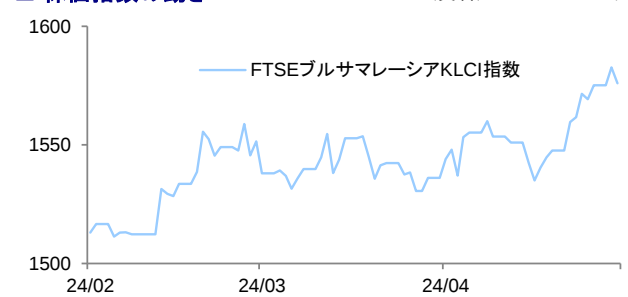
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/5	Foreign Reserves	Mar 29	-	\$113.8b	\$113.4b
4/8	Industrial Production	Feb	1.8%	3.1%	4.3%
4/19	Exports	Mar	-1.1%	-0.8%	-0.8%
4/19	Imports	Mar	9.8%	12.5%	8.4%
4/19	Trade Balance MYR	Mar	12.40b	12.81b	10.87b
4/19	GDP yoy	1Q A	3.9%	3.9%	3.0%
4/22	Foreign Reserves	Apr 15	-	\$113.4b	\$113.8b
4/25	CPI yoy	Mar	2.0%	1.8%	1.8%

■ 今月のつづき(現地からの声)

『当地のお祭り事情』

マレーシアのお祭りと言えば、イスラムのラマダン明けを祝うハリヤ・プササをイメージされる方は多いかと思いますが。今年は4月で既に過ぎてしまっているのですが、本稿ではハリヤ・プササ70日後のハリヤ・ハジを取り上げたいと思います。日本語では犠牲祭とも訳されるハリヤ・ハジですが、神に対する忠誠心を表す祝日であり、イスラム教徒の方々にとっては大切な日です。神への忠誠心として、ヤギや牛を生贄にして捧げるのですが、ここでもイスラム教の慈悲の精神を確認することができ、生贄した肉は3等分して、自分と家族、友人の他に恵まれない人々への寄付という形で配られます。ところで、この“ハジ”というのは、メッカ巡礼を表していて、日本ではなかなかメッカ巡礼をする知り合いに出会う機会は限定的ですが、マレーシアに住んでいると自分の知り合いでもメッカ巡礼をした人の話を聞きます。

非イスラム教徒にとって、ハリヤ・ハジで覚えておきたい日常生活上の重要ポイントは激しい渋滞ではないでしょうか。大切な日だからこそ家族で過ごすことを大切に考えるマレー人は、ハリヤ・ハジで帰省する人が多いです。この帰省ラッシュに嵌らない様に旅行計画を立てることがマレーシアで上手に生き抜く技です。

さて、KL都市部に住んでいると生贄にされた動物を見る事はほとんど無くなりましたが、市内のウェットマーケットであるChow Kit Marketでは普通に牛や豚の頭が店先に並んでいます。小さなお子さんに行く際はトラウマにならない様に注意が必要ですが、なかなかの見応えですので、機会がありましたら是非一度足を運んでみてください。(内田)

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 15900 ~ 16350
 IDR/JPY 0.9434 ~ 0.9804
 JPY/IDR 102.00 ~ 106.00

(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 網島 正侑記

■ 先月の為替相場

4月のルピアは下落。週初1日15800台半ばで取引を開始したドルルピアは前週のドル買いの流れを引き継ぎドル高で推移。1日に発表されたインドネシア3月消費者物価指数(CPI)の結果は前年同月比+3.05%となり市場予想を上回る結果となったが、為替市場反応は限定的。海外時間に入り発表された米3月ISM製造業景気指数が市場予想対比良好な結果となったこともドル高の追い風となり15900台半ばまでドル高・ルピア安が進展したが、レバラン休暇を前にルピアは下落幅を縮小させ15800台半ばで連休入り。連休中に発表された米3月CPIの結果が事前予想を上回る結果となったことやFRB高官からのタカ派発言、さらには中東情勢緊迫化を受けたリスク回避的な値動き等を受けドル高が進展する中、オフショア市場ではドル高が進展。レバラン休暇明けとなる16日、ドルルピアは16000台と連休前5日クローズから大きくルピア安が進展して取引を開始。当局関係者から介入が示唆されたがルピア安が継続し一時16200近辺までルピア安が進展し19日には月中高値となる16200台後半を付けた。22日に発表されたインドネシアの3月貿易収支は市場予想を上回る黒字額となったが、輸入減少が主因となっており(輸出も前年同月比で減少)市場の反応は限定的となり、16200前半での値動きが継続。24日に開催されたインドネシア中銀会合において、政策金利を+0.25%利上げすることが決定されたが、市場の反応は限定的。事前予想では据え置きを見込む向きが多数となっており、サプライズでの利上げとなったが、ドル高が優勢となる中でインドネシア中銀の利上げが為替市場に与える影響は限定的との見方もあったものと推察される。翌25日は16200台前半までルピア安が進展。月末が近づくと、26日には実需のルピア売り圧力が強まりルピアは16200台前半で軟調に推移しクローズした。

■ 今月の見通し

5月のルピアは底堅い値動きを予想。足許で米利下げ期待が後退しており、ドル高の流れはまだ継続するものとする。これに対しインドネシア中銀は24日のインドネシア中銀会合において+0.25%の利上げを決定し、BI金利を過去最高水準となる6.25%とした。ドル高の中でのサプライズ利上げであり、昨年10月会合での利上げと似た状況での決定となる。昨年10月の利上げ後のドルルピアは、ドル高の流れが継続する中で利上げを決定したが、その後もルピア安が進展し15900台の安値を付けていた。このことを踏まえれば今回もドル高の流れが継続するのあればルピア安が進展するものと予想されるが今回は前回と異なり、ペリー総裁が具体的な為替水準について言及している点について注意する必要がある。24日、会合後の会見においてペリー総裁は2024年4～6月期についてはルピアは平均して16200近辺で安定的に推移し、7～9月期には16000、10～12月期には15800近辺までルピア高が進展するとの見方を示した。具体的な水準にまで言及しており、同水準を大幅に乖離する局面においてはより強い介入を行うとも受け止められる。季節性として5～6月については配当金等の支払いによりルピア売り圧力が強まりやすい時期ではあるが、これまで「通貨の安定を優先する」との立場を維持してきたインドネシア中銀が、ルピアの史上最安値に迫っている状況下で、これ以上の急激なルピア安を容認するとは考えにくい。ドル高の流れが継続したとしても当局による介入によりルピア安の余地は限定されるものと考え5月のルピアは底堅い推移となるものと予想。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地のお祭り事情』

【ニュビ】

「沈黙の日」として広く知られており、バリ島で最も有名かつ重要なフェスティバルの1つです。適切な時期にバリ島に滞在している場合は、一度体験する価値があります。ニュビはバリの新年の始まりであり、全国的な祝日ですが、バリ島でのみ祝われます。日付は毎年変わりますが、通常は3月に開催されます。ニュビ当日は、バリ島にいる場合はホテルから出ることができず、空港もその日は閉鎖されます。また、電気をつけたり、電気製品を使用したりすることも禁止されています。その理由は、バリ人がこの日に幽霊が島の上空を飛んでくると信じており、完全な暗闇の中で島を見た場合、そこは無人だと思い、もう1年間放置すると信じているためです。この日に外出が許可されるのは、治療が必要な場合などの緊急事態がある場合です。

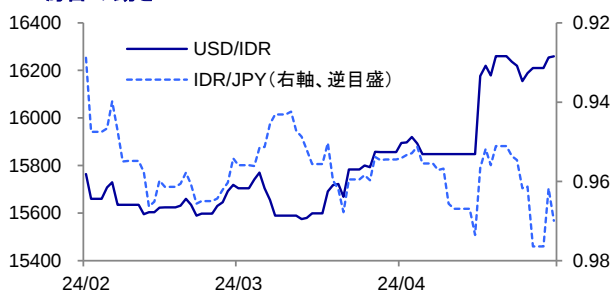
【スカテン】

イスラムの預言者ムハンマドの誕生を祝ったことから始まったとされます。スカテン祭の目玉は、果物や野菜などを山盛りに飾ったグヌンガン(山の形をしたもの)をおみこしのように担いで王宮からモスクまで練り歩くパレードです。モスクでお祈りをした後、何千人もの人々がそのグヌンガンを目掛けて集まり果物や野菜を奪い合います。市場でも野菜や果物は簡単に手に入り値段も安いのですが、グヌンガンの果物や野菜には特別な力があり、それらを田畑に埋めると、多くの作物を収穫できると信じられています。それ以外にも、伝統的なジャワ舞踊やガムラン演奏が行われます。また、日本の祭りのように、店や屋台がたくさん出て、子供たちが遊べる小さな遊園地もあります。毎年11月上旬に行われるので、その時期にジョグジャカルタへ行く機会があれば、ぜひ見に行くことをお勧めします。

(インドネシアみずほ銀行 アストリッド)

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	CPI(前年同月比)	3月	2.91%	3.05%	2.75%
4/22	貿易収支(USD M)	3月	1,225	4,473	834
4/22	輸出(前年比)	3月	-10.73%	-4.19%	-9.60%
4/22	輸入(前年比)	3月	-5.00%	-12.76%	15.84%
4/24	BI 金利	-	6.00%	6.25%	6.00%

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 56.50 ~ 58.50
JPY/PHP 0.360 ~ 0.385

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 福田 俊輔

■ 先月の為替相場

【4月のドルペソ相場は、上値抵抗線を意識しながらペソ安推移】

月初は、1米ドル=56ペソ前半台でドルペソ相場は開始。前月末が4連休となっていたフィリピンでは、月初週は実需の売り買いが交錯する展開となり、56.50手前でもみ合い推移。8日に発表された、フィリピン中銀の金融政策決定会合では、5会合連続となる政策金利据置きとなり、市場参加者の予想通りの結果。比3月消費者物価指数(CPI)も前回比でこそ上昇したが、予想比やや弱めとなる+3.7%(前年比)という結果になっており、比中銀が定める+2~4%のレンジ内であることから、政策運営を即座に転換する可能性は低い。

一方、米3月雇用統計、物価指標が予想対比で強い結果が公表されると、徐々にドル買い優勢の展開にシフト。米長期金利やドルインデックスの上昇がサポート材料となり、ドルペソも56台後半へ水準を切り上げていった。

中旬に入ってもドル買いの流れが続き、徐々に上値抵抗線である57に近づく展開。同水準は、昨年8月~11月にかけて長らく上値を押さえられていた抵抗線であったので意識せざるを得ない水準。16日の値動きとしては、終日57を目前に控えて、くすぶる展開となったことから、上値の重たさを感じさせた。ところが、翌17日には朝方ギャップオープンし、あっさり抵抗線を上抜けることで、再び上伸を開始し、57.50近辺へ水準をシフト。

下旬に入る頃には、FRB高官からも堅調な米経済指標を意識して、政策金利の利下げ時期後退を示唆するような発言が相次ぐ。米長期金利も上昇していたことから、ドルペソ相場は次なる節目となる58を捉えに行く展開となった。しかしながら、2022年11月以来の約1年5か月ぶりの水準までペソ安が進出し、4月に入ってからペソ安もペースも早かったことから、上値警戒感もあり、月終盤は57台後半で膠着となった。

■ 今月の見通し

【5月のドルペソ相場は、心理的節目となる58を上抜けるかの攻防戦】

最近発表された米経済指標から労働市場の堅調さやインフレ圧力の根強さが示され、FRB高官発言からも政策金利の利下げ時期の後退が示唆されている。

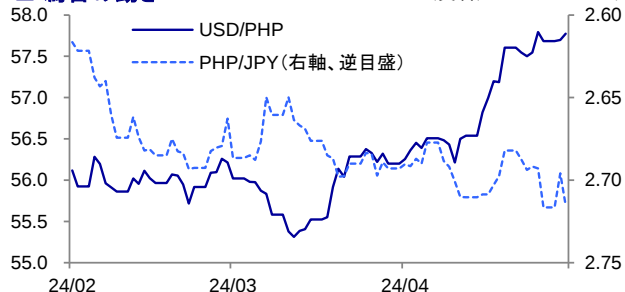
その結果、ドル一強に近いような状況となっており、ドル/円をはじめ各国でドル高/地場通貨安の様相。ドルペソも同様に心理的節目を意識したり、インドネシアのようにサプライズとなる政策金利の引上げやベトナムでは日中の為替値幅の取引レンジ規制を意識した値動きとなっている。

5月も引続き、米金利主導でのドルペソ相場となる見込み。月初早々にFOMCが予定されているが、政策金利は据え置きの見込みとなるものの、その後のFRB高官発言や米4月雇用統計に注目が集まる。米経済指標に一喜一憂しながら、ドルペソ相場は58の心理的節目をブレイク出来るかが試される展開となる。

2022年当時は、8月頃には55.50~56.00の水準にあったが、9月あたりから足早にドル高ペソ安が加速し、然したる抵抗線に阻まれることなく、10月には60.00を捉えかねない値動きとなっていた。今回も3月中旬には55.50近辺ではあったものの、4月にかけて2022年と遜色ないペースで58手前のペソ安まで駆け上がってきている。グローバルにドル買い優勢となる中で、通貨防衛を図るには分が悪そうであるが、ここまで静観しているフィリピン中銀などからのコメントに注目して参りたい。一方、これまで大きな調整なくドル優勢となっていたことに伴う、市場の自律的調整による反転も短期的には起こり得るかもしれないが、一時的な可能性が高い。

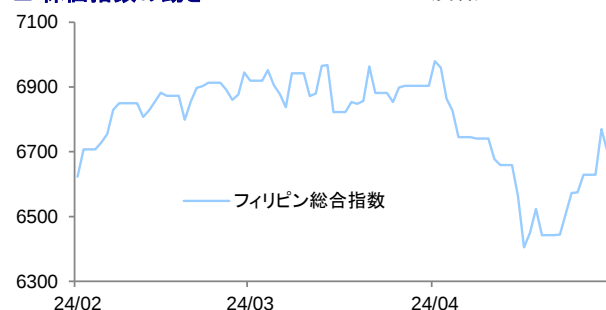
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日 イベント
上記参照

(資料) ブルームバーク

期間 予想 結果 前回

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 82.90 ~ 83.80
INR/JPY 1.82 ~ 1.95

アジア・オセアニア資金部 インド室 綿引 修平

■ 先月の為替相場

【4月の米ドル/インドルピーは節目83水準超えて底堅く、小幅なルピー安】
83台前半水準にて当月取引を開始。月初については、大口の実需勢からのフローも相まって、ルピー高の流れとなるも、総じて83水準超えて底堅い推移。月央にかけては、ここもとのUSD高圧力の高まりに連れられて、じりじりとルピー安に転じる展開となり、83台半ばを超える局面も散見された。その後、当該水準を超えたタイミングから、インド準備銀行(RBI)からの上値抑えの為替介入(USD売り・INR買い)の為替介入が発動し始め、徐々に水準感を調整する動きとなるも、月末にかけては再びのUSD高圧力にて小幅に反発し、結局、83.40台後半水準にてクローズとなった(29日時点)。

SENSEXは、月初からじりじりと上昇基調を辿り、月央にかけて年初来高値を更新する展開。その後は、利益確定売りの様相が強く、一時72,000水準近傍まで下落する動きとなるも、総じて底堅い値動きは変わらず。月末にかけては反発の様相を見せ、再び年初来高値水準を視野に捉えてきた恰好。外国人投資家からのインド株への投資資金流入は、今月単体では売り越し優勢となっているものの、下値の底堅さも確認しつつ、大きな売り越しまでには至っていない状況。

インド経済指標では、3月製造業/サービス業PMIは強弱ミックスの結果に。4月金融政策委員会(MPC)は、7会合連続となる政策金利据え置き(6.50%)を実施。一方、今回投票も5対1と、前回2月会合時に引き続き利下げ票が入る恰好に。3月消費者物価指数(CPI、前年比)は+4.85%と、前回の+5.09%から低下し、久しぶりの+4%台に突入。3月貿易収支は赤字幅は縮小したものの赤字常態化は継続、通貨として売られやすい立ち位置は根強い印象。

■ 今月の見通し

【5月の米ドル/インドルピーは高値圏推移から84水準も視野か】
5月においては、高値圏での揉み合いを主軸としつつ、緩やかなルピー安の展開を見込む。4月は、節目83水準を超えて上下に往って来いの動きを見せたが、上値・下値ともに、実需勢のフローとRBIからの為替介入が交錯した恰好に。特に、83台半ばからの上値押さえの介入から、過度なルピー安への抑制姿勢は引き続きしっかり確認出来ている状況。斯かる中、RBIからのアンダーコントロールが継続する前提で、目線感としての安定推移路線は崩さず、根強いUSD高圧力から短期的に84ルピー水準も徐々に視野に捉えてくるか。

4月のMPCでは、政策スタンス(インフレ退治に向けた利上げ路線継続)は不変のままを維持し、引き続きインフレへの警戒態勢は崩していない。4月CPIは、前対比低下する結果に、インフレターゲットの+4.0%の到達に向けた道程を確認していくフェーズと認識しつつ、インドとしての利下げ局面入りが年後半にかけて視野に入ってくる可能性にも控えておきたい。

4月は、インド株・インド債券への投資資金流入については、利益確定売りの様相もあり売り越しとなるも、底堅さは不変。米経済の失速・利下げ局面入りにて本年後半にかけてルピー高の流れが顕在化すると見込むものの、思った程のUSD売りには至らず、むしろRBIからの下支えの為替介入や根強い実需勢からのアウトフロー(インドルピー売り)を伴って、ルピー安に回帰していく方向感で見ているが、ここもとの米インフレ動向から再度の利上げ観測へのFRB高官からのコメントも散見されつつあり、メインシナリオの点検も併せて実施する必要性が高まってきていると考える。年末にかけて米大統領選挙やインドにおける利下げ局面入りと重要イベントが重なり合う可能性もあり、年後半にかけてのボラタイルな値動きにも留意しておきたい。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

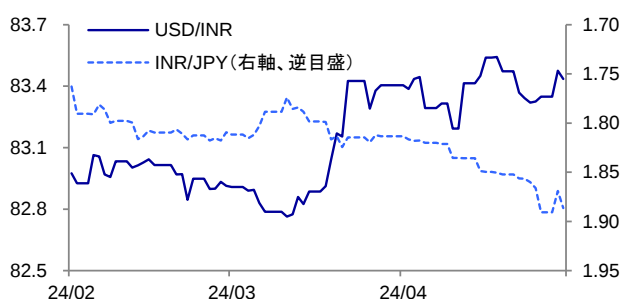
『当地のお祭り事情』
インドの多数派はヒンドゥー教徒であるが、イスラム教徒も15%を占める。つまりインドムスリムは2億人以上の大勢力であり、ビジネスや政治に影響を持つ。町中ではブルカを着用した女性も少なくない。

4月11日はイードと呼ばれるラマダン明けのお祭りだった。1か月の断食期間中も、バンガロール市内のモスクロードやシワジナガルといったエリアには夜市が立ち並び、サモサ・牛肉串焼き・ハリーム(肉とスパイスのおかゆ)などが売られる。人込みをかき分けつつエキゾチックな食べ物買い食いするのはまさにお祭りであり、外国人にも人気だ。

中東や一部東南アジアとは事情が異なり、インドのイスラム教徒はマイノリティとして強固な意志を持って断食せねばならない。挫折者も多く、バンガロールオフィスの行員・サポートスタッフのムスリム4名のうち断食を完遂したのは2名のみと聞いた。挫折者たちも盛大にイードを祝い、ビリヤニ(肉の炊き込みご飯)を我々に振舞ってくれる。(バンガロール・木原志乃)

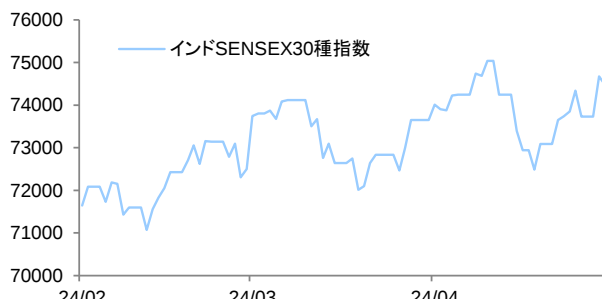
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/2	製造業PMI	3月	-	59.1	56.9
4/4	サービス業PMI	3月	-	61.2	60.6
4/5	政策金利	4月	6.50%	6.50%	6.50%
4/12	鉱工業生産	2月	6.00%	5.70%	4.10%
4/12	CPI	3月	4.90%	4.85%	5.09%
4/15	貿易収支(百万ドル)	3月	-18,402	-15,598	-18,710

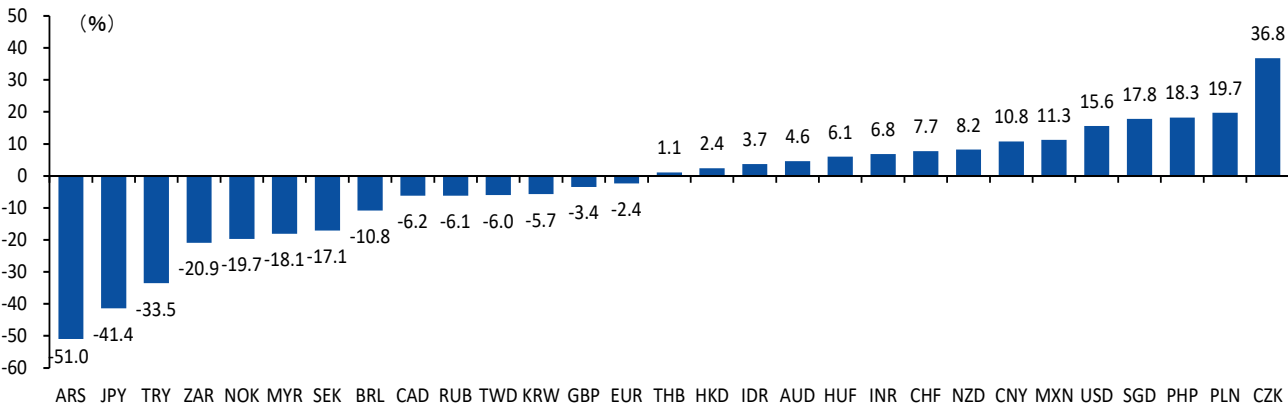
(資料) ブルームバーク

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2023年末	2024年4月末	騰落率	株式市場	2023年末	2024年4月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	37689.54	37815.92	0.3%	-
日本	USD/JPY	141.04	157.8	11.9%	日経平均株価	33464.17	38405.66	14.8%	2.6%
ユーロ圏	EUR/USD	1.1039	1.0666	-3.4%	ドイツDAX指数	16751.64	17932.17	7.0%	7.0%
英国	GBP/USD	1.2731	1.2492	-1.9%	ロンドンFTSE100指数	7733.24	8144.13	5.3%	7.3%
豪州	AUD/USD	0.6812	0.6473	-5.0%	S&P/ASX200指数	7590.818	7664.075	1.0%	6.3%
カナダ	USD/CAD	1.3243	1.3778	4.0%	S&PTロント総合指数	20958.44	21714.54	3.6%	-0.4%
エマーGINGアジア									
中国	USD/CNY	7.1	7.241	2.0%	上海総合	2974.935	3104.824	4.4%	2.3%
香港	USD/HKD	7.8115	7.8239	0.2%	香港ハンセン	17047.39	17763.03	4.2%	4.0%
インド	USD/INR	83.2088	83.435	0.3%	インドSENSEX30種	72240.26	74482.78	3.1%	2.8%
インドネシア	USD/IDR	15399	16259	5.6%	ジャカルタ総合	7272.797	7234.197	-0.5%	-5.8%
韓国	USD/KRW	1291.07	1382.18	7.1%	韓国総合株価	2655.28	2692.06	1.4%	-5.3%
マレーシア	USD/MYR	4.594	4.7725	3.9%	ブルサマレーシアKLCI	1454.66	1575.97	8.3%	4.3%
フィリピン	USD/PHP	55.385	57.774	4.3%	フィリピン総合	6450.04	6700.49	3.9%	-0.4%
シンガポール	USD/SGD	1.3203	1.3655	3.4%	シンガポールST	3240.27	3292.69	1.6%	-1.7%
台湾	USD/TWD	30.579	32.578	6.5%	台湾加権	17930.81	20396.6	13.8%	6.8%
タイ	USD/THB	34.256	37.187	8.6%	タイSET	1415.85	1367.95	-3.4%	-11.0%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2024年3月時点)



■ 実質GDP成長率

	2022Q3	2022Q4	2023Q1	2023Q2	2023Q3	2023Q4	2024Q1	2022	2023
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.7	2.6	2.2	2.1	4.9	3.4	1.6	1.9	2.5
日本*	-0.7	1.8	4.0	4.2	-3.2	0.4		1.0	1.9
ユーロ圏	2.5	1.9	1.3	0.6	0.1	0.1	0.4	3.4	0.4
英国	2.1	0.6	0.3	0.2	0.2	-0.2		4.3	0.1
豪州	5.8	2.4	2.5	2.1	2.1	1.5		3.8	2.1
カナダ*	1.8	-0.9	2.6	0.6	-0.5	1.0		3.8	1.1
エマージングアジア									
中国	3.9	2.9	4.5	6.3	4.9	5.2	5.3	3.0	5.2
香港	-4.6	-4.3	2.9	1.5	4.1	4.3		-3.7	3.2
インド	5.5	4.3	6.2	8.2	8.1	8.4		9.7	7.0
インドネシア	5.7	5.0	5.0	5.2	4.9	5.0		5.3	5.1
韓国	3.2	1.4	0.9	0.9	1.4	2.2	3.4	2.6	1.4
マレーシア	14.1	7.1	5.6	2.9	3.3	3.0	3.9	8.7	3.7
フィリピン	7.7	7.1	6.4	4.3	6.0	5.5		7.6	5.6
シンガポール	4.2	2.4	0.5	0.5	1.0	2.2	2.7	3.9	1.1
台湾	4.0	-0.7	-3.5	1.4	2.2	4.9	6.5	2.6	1.3
タイ	4.4	1.3	2.6	1.8	1.4	1.7		2.5	1.9

(注)インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	23/08	23/09	23/10	23/11	23/12	24/01	24/02	24/03	2022	2023
	(%)								(%)	
先進国										
米国	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.6	3.6
日本	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.6	2.6	2.6
ユーロ圏	6.5	6.5	6.6	6.5	6.5	6.5	6.5		6.7	6.5
英国	4.2	4.1	4.0	3.9	3.8	4.0	4.2		3.9	4.0
豪州	3.7	3.6	3.8	3.9	3.9	4.1	3.7	3.8	3.7	3.7
カナダ	5.5	5.6	5.7	5.8	5.8	5.7	5.8	6.1	5.3	5.4
エマージングアジア										
中国										
香港	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	3.0	4.3	3.0
インドネシア	5.3								5.9	5.4
韓国	2.5	2.6	2.5	2.8	3.2	3.0	2.6	2.8	2.9	2.7
マレーシア	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3		3.8	3.4
フィリピン	4.4	4.5	4.2	3.6	3.1	4.5	3.5		5.4	4.4
シンガポール	2.3	2.1	2.1	2.0	1.8	1.9	2.0	2.0	2.1	1.9
台湾	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.7	3.5
タイ		1.0								

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	23/07	23/08	23/09	23/10	23/11	23/12	24/01	24/02	24/03	2022	2023
	(前年比%)									(前年比%)	
先進国											
米国	3.2	3.7	3.7	3.2	3.1	3.4	3.1	3.2	3.5	8.0	4.1
日本	3.3	3.2	3.0	3.3	2.8	2.6	2.2	2.8	2.7	2.5	3.3
ユーロ圏	5.3	5.2	4.3	2.9	2.4	2.9	2.8	2.6	2.4	8.4	5.5
英国	6.8	6.7	6.7	4.6	3.9	4.0	4.0	3.4	3.2	9.1	7.3
豪州			5.4			4.1			3.6	6.6	5.6
カナダ	3.3	4.0	3.8	3.1	3.1	3.4	2.9	2.8	2.9	6.8	3.9
エマージングアジア											
中国	-0.3	0.1	0.0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	0.1	2.0	0.2
香港	1.8	1.8	2.0	2.7	2.6	2.4	1.7	2.1	2.0	1.9	2.1
インド	7.4	6.8	5.0	4.9	5.6	5.7	5.1	5.1	4.9	6.7	5.7
インドネシア	3.1	3.3	2.3	2.6	2.9	2.8	2.6	2.8	3.1	4.2	3.7
韓国	2.4	3.4	3.7	3.8	3.3	3.2	2.8	3.1	3.1	5.1	3.6
マレーシア	2.0	2.0	1.9	1.8	1.5	1.5	1.5	1.8	1.8	3.4	2.5
フィリピン	4.7	5.3	6.1	4.9	4.1	3.9	2.8	3.4	3.7	5.8	6.0
シンガポール	4.1	4.0	4.1	4.7	3.6	3.7	2.9	3.4	2.7	6.1	4.8
台湾	1.9	2.5	2.9	3.0	2.9	2.7	1.8	3.1	2.1	3.0	2.5
タイ	0.4	0.9	0.3	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8	-0.5	6.1	1.3

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2022Q2	2022Q3	2022Q4	2023Q1	2023Q2	2023Q3	2023Q4	2022	2023
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-3.9	-3.8	-3.7	-3.4	-3.2	-3.0	-2.9	-3.8	-3.0
日本	3.0	2.3	2.1	1.6	2.1	3.1	3.6	2.1	
ユーロ圏	1.0	-0.2	-0.6	-0.4	0.2	1.1	1.7	-0.6	1.7
英国	-3.4	-3.2	-3.1	-2.1	-2.2	-2.4	-3.3		
豪州	1.8	0.9	1.1	1.3	1.2	1.2	1.2	1.1	
カナダ	0.3	-0.1	-0.4	-0.7	-1.0	-0.9	-0.6	-0.4	-0.6
エマージングアジア									
中国	2.3	2.6	2.6	2.4	2.3	1.8	1.5	2.5	
香港	10.6	11.4	10.2	9.1	9.4	8.9	9.3	10.2	
インド	-1.9	-2.6	-2.4	-2.0	-1.7	-1.1	-0.9	-2.4	-0.9
インドネシア	0.9	0.9	1.1	1.2	0.7	0.2	-0.1	1.0	0.2
韓国	4.1	2.8	1.6	0.4	0.2	1.1	2.1	1.5	
マレーシア	2.7	2.5	3.1	3.0	3.3	2.8	1.3	3.1	
フィリピン	-4.6	-5.9	-4.6	-4.4	-3.3	-2.4	-2.6	-4.4	
シンガポール	18.9	18.8	18.0	18.2	18.2	18.5	19.8	18.0	19.8
台湾	14.9	14.3	13.4	12.1	11.9	12.7	13.9	13.4	13.9
タイ	-3.1	-3.7	-3.2	-2.1	-0.9	1.2	1.4		

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	変更幅	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	5.25-5.50	引き締め: 2022/3/16	0.00-0.25	2023/7/26	+25bp	2024/3/20	現状維持
日本	当座預金残高の政策金利	0.00	引き締め: 2024/3/19	-0.10	2024/3/19	+10bp	2024/4/26	現状維持
ユーロ圏	預金ファシリティレート	4.00	引き締め: 2022/7/21	-0.50	2023/9/14	+25bp	2024/4/11	現状維持
英国	バンク・レート	5.25	引き締め: 2021/12/16	0.10	2023/8/3	+25bp	2024/3/21	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	4.35	引き締め: 2022/5/3	0.10	2023/11/7	+25bp	2024/3/19	現状維持
カナダ	翌日物金利	5.00	引き締め: 2022/3/2	0.25	2023/7/12	+25bp	2024/4/10	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物最優遇貸出金利(LPR)	3.45	緩和: 2012/6/8	6.31	2023/8/21	-10bp	2024/4/22	現状維持
インド	翌日物レポ金利	6.50	引き締め: 2022/5/4	4.00	2023/2/8	+25bp	2024/4/5	現状維持
インドネシア	BI金利	6.25	引き締め: 2022/8/23	3.50	2024/4/24	+25bp	2024/4/24	+25bp
韓国	7日物レポ金利	3.50	引き締め: 2021/8/26	0.50	2023/1/13	+25bp	2024/4/12	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.00	引き締め: 2022/5/11	1.75	2023/5/3	+25bp	2024/3/7	現状維持
フィリピン	翌日物金利	6.50	引き締め: 2022/5/19	2.00	2023/10/26	+25bp	2024/4/8	現状維持
台湾	再割引金利(公定歩合)	2.000	引き締め: 2022/3/17	1.125	2024/3/21	+12.5bp	2024/3/21	+12.5bp
タイ	翌日物レポ金利	2.50	引き締め: 2022/8/10	0.50	2023/9/27	+25bp	2024/4/10	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	5.00	緩和: 2023/3/31	6.00	2023/5/23	-50bp	2023/5/23	-50bp

(注) インドネシア中銀は2023年12月21日に政策金利を7日物リバースレポレートからBI金利に変更

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行